

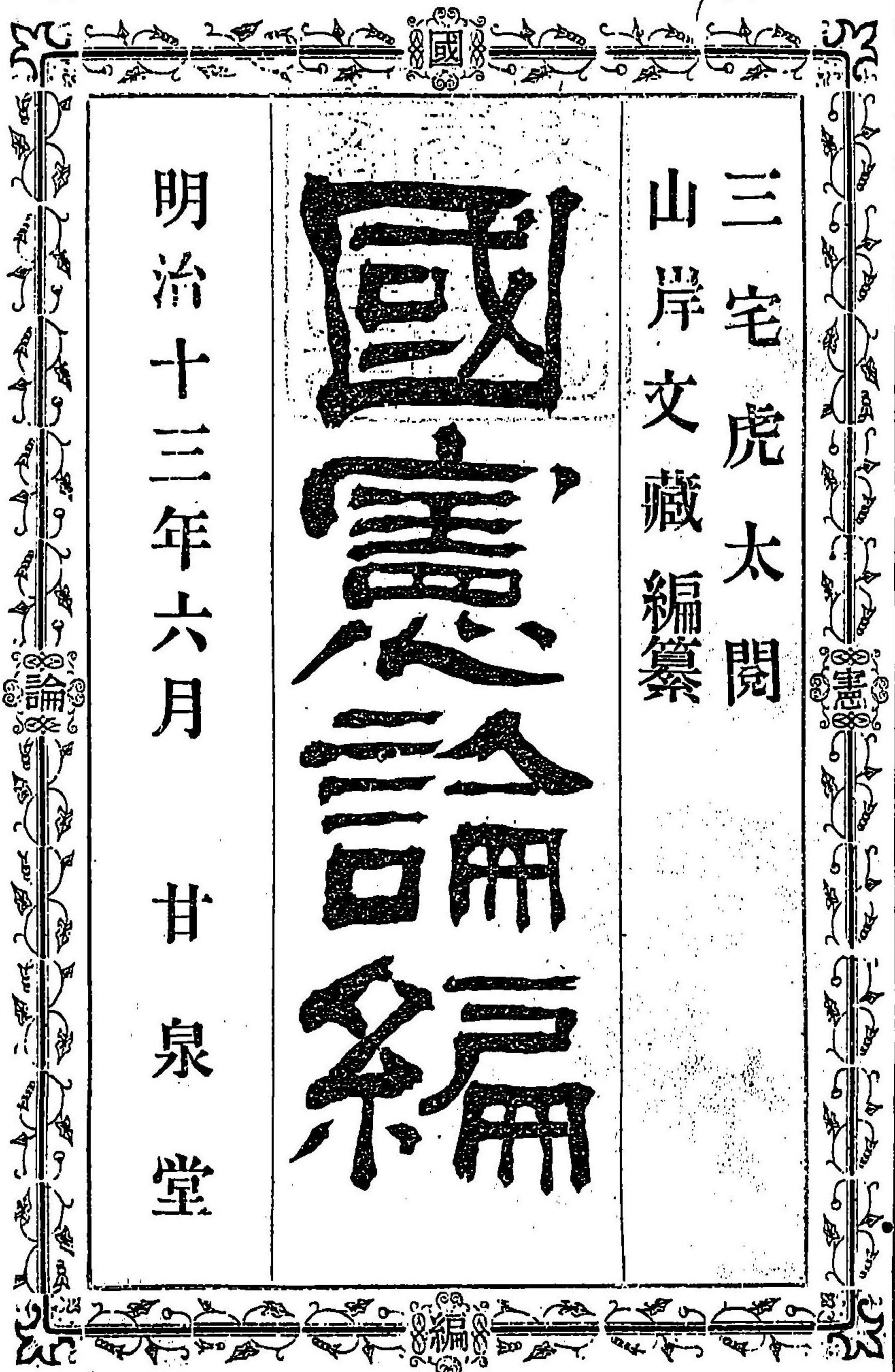
第14  
92

13

三宅虎太閔  
山岸文藏編纂

國憲論編

明治十三年六月 甘泉堂





國憲論編叙

國會ヲ立テ國民政事ニ參與シ一國ノ興廢存亡  
 ナ負擔シ確乎不拔ノ國憲ヲ立テ上下ノ權限ヲ  
 定メ相俱ニ國家ヲ維持セント望ムノ愛國志士  
 ハ今ヤ殆ト三府三十七縣ニ盈チテ國會ノ開設  
 ナ促サ、ルハナク其時機ハ已ニ業ニ十二分ニ  
 達シタリ  
 進ノ兩黨ヲ  
 國會ヲ開シ  
 現出スルニ至リ漸進主義ノ論者ハ  
 ノ前ニ國憲ヲ制定スヘシ國會ハ國  
 ルモノナレハ國憲制立セラレズン





ハ國會ハ又何ヲカ爲サント又急進主義ノ論者  
ハ國憲ナルモノハ人民ノ權利ニ關スル最モ重  
大ナリ之ヲ主治者ノ手ニ依囑セハ行政ニ便ニ  
シテ人民ニ不便ナル憲法ヲ立ツルモ知ル可ラ  
ス國憲ハ官民共ニ其權限ヲ定ルノ大典ナレハ  
國民俱ニ之ヲ商議スルニラスンハ至當ナリ  
ト云テ可ラス故ニ先ツ國會ヲ設立シテ之ヲ商  
議セシム可シト是レ急進漸進兩論者ノ大旨ナ  
リ今其意ヲ推スニ蓋シ漸進論者ハ官ノ爲メニ  
謀ルモノ、如ク官ノ手ニ國憲ヲ制定セシム可

キヲ望ミ急進論者ハ人民ノ爲メヲ謀ルモノ、  
如ク人民ノ手ニ國憲ヲ制定セシム可キヲ望ム  
ナリ余ハ此兩論者ニ向テ一言セントスルアリ  
曰ク國憲ハ國土ヲ保維スルニ欠ク可マサルノ  
一大要典ナリ焉ソ之ヲ有司ノ手ノミニ依囑シ  
テ可ナルノ理アラシヤ宜ク國會ヲ開設シ國會  
ニ於テ國憲ヲ議定シ政府ノ裁可ヲ得ルノ公兪  
明ナルニ如ガサルナリ是レ官民兩ツナカラツ  
便且ツ利ヲ得セシムルノ法ナリ故ニ今日ノ人  
民タル者ハ深ク其利害ヲ討テスシハアル可ラ



サルナリ凡ソ一國ノ政堂ニ立テ萬機ノ職務ヲ  
執リ一國ノ治亂蒼生ノ休戚ヲ任スルモノハ公  
平ヲ旨トシ明カニ國家古今ノ事蹟ヲ察シ詳カ  
ニ宇内ノ形勢ヲ觀、禍ヲ未萌ニ制シ亂ヲ未發ニ  
遏メ衆庶ノ安寧ヲ保護シ國勢ノ隆盛ヲ謀リ外  
國ト交際スルニ苟クモ國威ヲ汚サ、ルヲ旨ト  
シ上下一致シ艱難相援クルノ心アルハ余ノ言  
ヲ俟タスソ明々瞭々タリ夫レ然リ然レモ若シ  
之レニ反シ國家古今ノ事蹟ヲ察セス宇内ノ形  
勢ヲ詳カニセス禍ヲ未萌ニ制セス亂ヲ未發ニ

遏ムルノ才識ナク衆庶ノ安寧ヲ保護セス國勢  
ノ隆盛ヲ謀ラス外國ト交際スルニ常ニ彼ノ凌  
侮ヲ受クルヲアリテ上下隔離シ徒ニ外面ノ虛  
飾ヲ是レ張り政府ノ威權ヲ以テ輿論ヲ制壓シ  
自己ノ私意ヲ逞ウセントスルガ如キ者政府ニ  
立ツテアルキハ一國ノ人民タル者尊卑賢愚ノ  
別ナク其政府ヲ厭惡シ其極遂ニ不測ノ禍亂ヲ  
醸生シ億兆ヲ塗炭ニ陷レ一國ヲ維持經營スル  
ヲ能ハサルハ是レ特裁政府ノ通弊ニシテ古今  
内外ノ歴史ニ徵シテ其例ノ尠ナカラサルヲ知



ルナリ今之ヲ然リトセハ實ニ特裁ノ政治ハ永  
遠無窮ニ恃ム可ラサルモノナリ故ニ歐米文明  
ノ諸邦土風ニ立憲政體ヲ立テ國憲ヲ確立スル  
ニ及ヘリ其國憲ノ組織如何ニ至ツテハ各土風  
俗人情ノ相異ナルニ因テ同シカラサルアリト  
雖モ要スルニ皆是レ官民ノ權限ヲ確定シ其誼  
ヲ全ウシテ以テ國家真正ノ治安ヲ希圖スルノ  
意ニ外ナラサルカ故ニ國憲ノ確立セル國ニ於  
テハ前陳ノ如キ弊害ハ亦タ絶テコレナキナリ  
我邦ノ如キハ聖天子上ニ在リ賢相之ヲ輔佐ス

ルノ故ヲ以テ一モ如此弊端ヲ見スト雖モ亦或  
ハ千百載ノ後チ其事無キモ万一保ス可ラサル  
ナリ故ニ今日ニ於テ豫メ之ヲ救フノ策ヲ議ス  
ルハ國民ノ情トシテ避ク可ラサル所ナリ今日  
ニシテ之ヲ預防スルノ策アリヤ曰クアリ其策  
如何曰ク國民ヲシテ政事ニ參與セシメ國憲ヲ  
確立スルノ道是レナリ夫レ國憲ナル者ハ一國  
政治ノ基礎ニシテ即チ衆權ノ綱紀ナリ故ニ國  
會ヲ開設シテ之ヲ確定セハ國民倚テ以テ君主  
ノ抑壓ヲ免ルヲ得帝室賴テ以テ其君威ヲ保ツ



八  
チ得ヘク君權民權俱ニ全ク一國因テ以テ強盛  
ニ赴キ真正ノ治ヲ得永遠ニ獨立ヲ保鞏スルヲ  
得可シ夫レ國憲ノ國家ニ緊要ナル如此重且大  
ナリ如何ソ今日ノ國民タルモノ之カ良法即チ  
官民兩ツナカラ便且利ナル法ヲ講セスンハア  
ル可カラサルナリ一日山岸子此編ヲ携ヘ來リ  
余ニ序ヲ請フ披テ之ヲ閱スルニ國憲ノ諸說能  
ク蒐集シ盡セルモノ、如ク則チ今日ニ於テ此  
編ノ世ニ必要ナルヲ知ル爲メニ思フ所ヲ叙ス  
明治十三年第六月  
三宅虎太識

### 緒言

今ヤ愛國憂世ノ志士頻リニ國會開設ヲ政府  
ニ請願シ其開設モ亦遠キニアラザル可キヲ  
信ズ而シテ國會ノ事ヲ論ズル者ハ必ズ國憲  
ノ事ヲ云ハザルハナク國會國憲ハ恰モ車ノ  
兩輪ニ於ケルガ如ク兩ナガラ相存セズンバ  
アル可ワザルモノナレバ今日ニ於テハ實ニ  
國憲論ハ國家必要ノモノトス然ルニ世ノ著  
作家中國會論ノ編著アルモ未ダ國憲論ノ著  
作ヲナス者ノ希ナルハ實ニ嘆ズ可キノ至リ



ナラズヤ故ニ余ハ今日國憲論ノ必要ナルヲ  
知リ爲メニ賤劣ヲ省ミズ此舉ヲナスナリ看  
者幸ニ編者ノ杜撰ヲ尤ムルナク作者ノ用意  
ヲ採擇セバ其ノ益亦タ鮮少ニアラザルベシ

明治十三年六月 山岸文藏識

凡例

一此編上中下ノ三卷ニ分ツ而シテ上卷ニハ小  
野梓君ノ國憲論綱(從第一章至第三章)中卷ニ  
ハ草間時福君ノ國憲三綱論、青木匡君ノ國憲  
編制論及ヒ國憲編制ノ順序論。下卷ニハ福地  
源一郎君ノ國憲ヲ立ルノ論、沼間守一君ノ天  
下ノ俊傑ヲ招集シ國憲ヲ制定セザル可ラザ  
ルノ論、吾曹子ノ國憲ヲ維持スルニ德義ヲ以  
テスルノ說、臺尙通君ノ國憲論、加藤政之助君  
ノ憲法論。等皆當時ニ名論卓説ヲ以テ世ニ稱



セラレシモノヲ編撰ス故ニ今之ニ題シテ國  
憲論編トハ云ヘリ  
一編中間々編者ノ意見ヲ附スルコトアリト雖モ  
敢テ之ガ評論ヲナサズ只編者ハ本論ノ主意  
ノ飽ク迄讀者ニ通ゼンコトヲ欲スルナリ

明治十三年六月

編者識

### 國憲論編卷之上

信陽

山岸文藏編纂

#### ○國憲論綱

##### 第一章第一節

國憲ノ文字ノ不當ナルニ拘ハラズ之ヲ用キ  
ル趣意。國憲ノ意義其必用ナル所以

國憲ノ文字ヲ普通ノ意義ニ據リ廣ク解説スレバ即チ國法  
ノ謂ニシテ國土ノ所有スル法度ハ威ヲ其名ヲ負ヒ特リ建  
國法ノミナラス刑法、民法、軍法、海法、實法、治罪法、訴訟法、會計  
法ノ如キモ皆ナ其中ニ數フベキ者ナリト雖モ茲ニ予ガ所  
謂ル國憲ナルモノハ特ニ英語ノ「コンスタ、ウシヨン」即チ  
建國法ノ義ニ充ルモノニシテ其範圍、殊ニ狹シ抑モ「コンス



チ、ウシヨシナル英語ハ大本基礎等ノ邦語ヲ用非直譯ス  
 ベキモノニシテ英人ノ之ヲ用キテ建國法ノ義ニ充テシモ  
 ノハ主治者被治者ノ關係ハ人世ノ活度ニ於テ最モ大切ナ  
 ルモノニシテ其必用ナルハ他ノ諸法ニ超越シ他ノ諸法ノ  
 善惡ハ此法ノ善惡ニ基スルモノ多ク民權ノ存亡、一ニ此法  
 ノ如何ニ由レバナリ故ニ之ヲ漠然義譯シテ國憲ト謂フハ  
 寧ロ廣汎ニ涉リ太ダ妥當ナラザルモノナリ然リト雖ヒ近  
 時譯述ニ從事スルモノ多ク之ヲ用キテ之ヲ義譯シ慣用ノ  
 久シキ自然從前ノ意義外ニ別義ヲ生ジタル形ニシテ終ニ  
 世人モ國憲ト謂ヘバ所謂ル「コンスタ、ウシヨシ」即チ建國  
 法ノ義ナルヲ認ルニ至レリ故ニ予レ今其不當ノ譯語ナ  
 ルニ拘ハラズ國憲ナル邦語ヲ用キ「コンスタ、ウシヨシ」ナ

ル英語ヲ填メント欲ス蓋シ言語ハ想像ノ表ニシテ文字ハ  
 言語ノ代辨ナレバ苟モ國憲ノ文字ニシテ建國法ノ想像ヲ  
 世人ニ示ス事ヲ得バ充分ニ言語文字ヲ用ユル所以ノ目的  
 ヲ成就スルニ足リ更ニ新造ノ文字ヲ用キ世人ノ解譯ヲ混  
 雜セシムルハ却テ穩當ノ措置ニアラザルヲ知レバナリ  
 國憲即チ建國法ハ一ニ大本ノ法ト稱シ甚ダ重ク之ヲ説キ  
 タリト雖ヒ其本質ニ分ケ入り仔細ニ之ヲ吟味スレバ是レ  
 主治者ノ職分權理ヲ明示シ其暴政非治ヲ防禦シ被治者ノ  
 安堵ヲ謀ルモノタルヲ知ル故ニ平易ニ其意義ヲ解ケハ則  
 チ役人ノ職制章程ナリ主治者被治者ノ約束ナリト謂ツベ  
 シ  
 然リ而シテ泰西人ノ往々之ヲ大本ノ法ト敬重崇尊シ饒ヒ



民刑ノ諸法ナカラシムルモ此法一日モナカルベカラズト  
 迄極言スルニ至ルモノハ畢竟主治者被治者ノ關係ハ民人  
 相依ノ交通ニ比スレバ其利害ノ繫ル所頗ル著大ナル者ア  
 レバナリ何ゾヤ曰ク國ニ民刑等ノ諸法ナキトキハ其保護  
 ノ器械ヲ欠クガ爲メ之ガ民人タルモノ自カラ其權理ヲ保  
 有スル難キモノアルベシト雖也、究竟斯時ニ於テハ數人ノ  
 利益ヲ擧テ數人ノ犠牲ト爲スニ過ギズ一人一個ニ就テ之  
 ヲ論ズレバ彼我常ニ相互ノ地ニ立テ我ヲシテ尙ホ平等對  
 頭ノ權理ヲ得ルノ望ニ有ラシム國ニ國憲即チ建國法ノ設  
 ケナキトキハ則チ否ラズ蓋シ此時ニ當リテハ多數ノ利益  
 ヲ放テ少數ノ侵掠ニ任スモノニシテ主治者タルモノ若シ  
 德義ノ良心ヲ以テ其侵掠ヲ爲スナクバ被治者ノ大幸ナリ

亦雖爾苟モ之ニシテ不徳ノ惡念ヲ懷キ其治國ノ權柄ヲ弄  
 バントナレバ海陸軍、警察、裁判所等ノ如キ管テ人民保護ノ  
 器械ヲリシ者皆彼レガ逞暴ノ器具ト變ジ其禍害ノ大ナル  
 相互ニ侵掠ヲ爲ス時ノ比ニアラズ被治者タルモノ往々其  
 奴隸ニ打爲サレ財產所有等ノ權理ハ愚カ其生命ガニ自治  
 スルコ能ハザルニ至レバナリ加之他ノ諸法ノ善惡間々主  
 治者ノ良否ニ依ルモノ有リテ國憲ノ與ル所甚ダ大ナリ故  
 ニ之ヲ設置シ主治者ノ職分權理ヲ明示スルハ唯リ主治被  
 治ノ關係ヲ正スノミナラズ又以テ被治者相對ノ交通ヲ正  
 スベキモノタルヲ知ル果シテ然ラハ國憲ノ社會ニ必用ナ  
 ル明々瞭々又々疑フベキモノアラザル也

第一章第二節



泰西ニ國憲ノ起リシ畧史、並ニ其醜態、本邦立  
 憲ノ萌芽、並ニ其發生ノ美  
 既ニ前節ヲ叙シ了リ眼ヲ注テ泰西ノ各土ニ國憲ノ起立セ  
 ジ事情ヲ顧ミ之ヲ以テ本邦ニ國憲ノ發生セル有様ニ比較  
 スルニ余ハ讀者ト共ニ頽ヲ開テ大ニ賀スベキ一大快事タ  
 ルコトヲ見出シタリ  
 按ズルニ泰西ノ各土モ昔シ政府ト名クベキモノニ現シタ  
 初メハ他ノ諸大洲各土ト均シク強族自カラテ自治者ノ地  
 位ヲ占メ其近傍ノ弱小ナル種族ヲ苛ク支配セシモノニシ  
 テ追々文明ノ度モ進ミ或ハ邦ヲ立テ或ハ都府ヲ建ルノ地  
 位ニ至リシ後モ尙ホ往昔ノ餘威ヲ藉リテ自儘ナル政事ヲ  
 爲シ馴致耶蘇紀元第十七百紀ノ下半ニ至リ依然、被治者、護

衛ノ權柄ヲ弄ビ他ノ權理ヲ害シ己ガ職分ヲ忘ル者多シ  
 然ルニ其非政弄權ノ深甚ナル遇々以テ民人自治ノ心ヲ刺  
 衝スルニ足リコノ年紀ノ前後ヨリシテ政府ガ設置ノ想像  
 漸ク歐米兩洲ノ間ニ進ミ以テ米洲聯邦ノ獨立ヲ釀成シ編  
 定ノ國憲始メテ立ツニ至レリ踵テ佛蘭西ノ革命、伊芽亞ノ  
 立憲等アリテ泰西政治ノ有様、今日ノ盛ナルヲ致セリ特ニ  
 英國ノ如キハ自治ノ想像、夙ニ民人ノ間ニ進歩シザヨシ王  
 「マクナ、カータ」ニ捺印セシ以還、漸ク參政ノ權理ヲ民人ニ分  
 與シ次第ニ其歩武ヲ進メ今日アルニ至リ其國憲ナルモノ  
 未ダ編成ノ完全ヲ盡サズト雖モ其大體、既ニ被治者ノ腦漿  
 ニ點印シ主治者ヲシテ後之ヲ弄用スルヲ得ザラシム是レ  
 泰西ニ國憲ノ起リシ畧歴史ニシテ之ヲ成ク書キ綴ラント



ナラバ數十ノ冊子ト許多ノ歲月ヲ費サザルヲ得ザルモノ  
 也然リ而シテ余ヤ今史書ニ就キ其起リシ時ノ有様ヲ察ス  
 ルニ大抵主治者、壓抑ノ苦ニ堪ヘズ被治者タル者其結合ノ  
 腕力ヲ振ヒ主治者ト争鬪シテ以テ之ヲ成就スル者多ク、其  
 中十數條ノ國憲ヲ要ムルガ爲メ千斛ノ鮮血ヲ流シ國憲ノ  
 腥キヲ數萬里外ノ日本ニ聞ユルモノアリ其跡ノ醜惡不祥  
 ナル識是勢力ノ世界ニアリテ之ヲ見レバ譬ヘンモ又事物  
 ナキモノアリ然ルニ頃日本邦ニ狂暴ノ議者アリテ自由ハ  
 鮮血ヲ以テ買フヘキナド唱ルモノアリ斯ク不平ノ私憤ニ  
 堪ヘズ一時、故サヲニ過激ノ言ヲ造リ自カラ漏スモノナル  
 ベシト雖モ苟モ斯等不祥ノ語ヲ唱ヘ本邦ノ自由モ亦腥カ  
 ラシメシトスル者アラバ余ノ如キ眞成ニ自由ヲ重ンズル

輩ハ甚メ心ニ慊カラザル者アリ呼々邦人ヨ汝ノ自由ハ鮮  
 血ヲ以テ買フヲ用キズ腕力ヲ以テ争フヲ用キズ唯汝ノ識  
 カヲ竭シテ之ヲ求メヨ否ラザレバ汝ノ自由モ亦泰西ノ醜  
 惡不祥ニ倣ヒ腥カラルヘク豈ニ悲マザルベケン哉  
 前段ノ末ニ説キタル如キ狂暴ノ議者アルニ拘ハラズ本邦  
 立憲ノ萌芽ハ最モ美妙ナル勢ヲ以テ既ニ發生シ來レリ是  
 レ余ガ讀者ト共ニ外ハ泰西人ニ對シテ之ヲ伐リ内ハ自カ  
 ラ贊シテ未ダ止マザル者也、今大寶ノ遺令等ニ據リテ之レ  
 ナ考フルニ中古王室ノ盛ンナリシ頃ハ八省彈臺使察司等  
 ノ設ケアリ各々其職制ヲ建テ官吏ノ職務責任ヲ明示シ稍  
 ヤ國憲ニ類セシモノアリシト雖モ畢竟是レ君主ノ其政權  
 ヲ下民ニ施ス爲メ已レガ臣隸ヲ促責セント欲シ之ヲ設ケ



シモノニシテ寧ロ主治者ノ長タル者其僚屬ヲ約束スルノ  
 趣意ニ出ルモノ多ク未ダ主被兩治者ノ相約束シテ被治者  
 ノ安堵ヲ謀ルガ如キ開進ノ想像アラザル也故ニ中古至治  
 ノ時ト雖モ立憲ノ想像ハ日本國民ノ腦裏ニ寓セシテ無シ  
 ト謂フモ甚ダ過言ニアラザルナリ況ンヤ降テ相家武門專  
 横ノ時ニ至リテハ主被關係ノ不當ナル間々筆スベカラザ  
 ルモノ多シ此際豈ニ所謂立憲ノ想像ナルモノアリテ本  
 邦ニ存セシヤ曰ク然ラハ邦人、何時カ始メテ立憲ノ想像ヲ  
 起セシヤ曰ク立憲ノ想像ハ維新ノ前後、自由ノ想像ト共ニ  
 海外ヨリ來リ其之ヲ培養シ僅ニ十年ニシテ充分ニ其萌芽  
 ナ出サシメタルモノハ實ニ明治維新ノ御誓文、廢藩置縣ノ  
 號令、八年四月十四日ノ大詔、同年六月十四日ノ詔及ビ舊參

議諸老輩ノ建議等ノ力也、今按ズルニ維新ノ誓文ニハ唯廣  
 ク集議ヲ詢ヒ萬機公論ニ決ストノミアレバ之ヲ速了シテ  
 立憲ノ萌芽ヲ培養シタル者ト斷言シ難シト雖モ八年四月  
 ノ大詔同年六月ノ詔ニ維新ノ誓文ヲ擴充シ云々トアルヲ  
 以テ之ヲ推セバ夫ノ御誓文モ立憲ノ一肥料タルコト明白ニ  
 シテ疑フベカラズ廢藩置縣ノ號令ハ國力分裂ノ大弊ヲ醫  
 シタルノミナラズ又我が士民ヲ放テ奴隸ノ軛ヲ脱シ自由  
 ノ一部ヲ得セシムルモノト謂ツベクシテ其自由ノ根幹ヲ  
 養肥セシハ余ガ深く信ズル所ナリ其故如何トナレバ廢藩  
 ノ前ニ當リテハ士民大抵諸大小名ノ屬隸タルガ故ニ毎ニ  
 主人ノ意想ヲ以テ氣儘ニ支配セラレ其實境、世ノ所謂ル奴  
 隸タルヲ免レサレバナリ今試ニ其證左ノ一二ヲ舉ンニ



士民ハ嘗テ財産特有ノ權利ナク運行婚姻等ノ自由ナク甚  
 シキニ至リテハ其生命スラ尙ホ且ツ主人ノ生殺ニ任セタ  
 ルニアラズマ故ニ余ハ嘗テ廢藩ノ大舉ヲ稱シ我が獻聖ナ  
 ル明治文武皇帝ハ久シク我が國力ヲ分裂セシ封建ノ惡制  
 ヲ廢絶シ同時ニ八百年來本邦ニ在存シ其體面シ汚ヲタル  
 奴隸苦役ノ醜風ヲ洗除シタル双美事アリト謂ヘリ八年四  
 月ノ大詔及ヒ同年六月ノ詔ハ詔詰自カラ立憲ノ肥料タル  
 ナ證シ新ニ表示ヲ作ルヲ要セズ故ニ余ハ今其全文ヲ左ニ  
 掲載スルノ自由ヲ得ント欲ス四月十四日ノ詔ニ曰ク  
 朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ  
 國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ  
 カトニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ願ニ中興日淺ク内

治ノ事當ニ振作更張スベキ者少シトセズ朕今誓文ノ意  
 ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院  
 ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民  
 情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆  
 庶ト俱ニ其慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ニ故ニ慣  
 ル、ト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルト莫ク其レ  
 能ク朕ガ旨ヲ體シテ翼賛スル所アレ

六月十四日ノ詔ニ曰ク

朕踐祚ノ初神明ニ誓ヒシ旨意ニ基キ漸次ニ之ヲ擴充シ  
 全國人民ノ代議人ヲ召集シ公議輿論ヲ以テ律法ヲ定メ  
 上下協和民情暢達ノ路ヲ開キ全國人民ヲシテ各其業ニ  
 安ンジ以テ國家ノ重ヲ擔任スベキ義務アルヲ知ラシメ



シテ期望ス故ニ先ツ地方ノ長官ヲ召集シ人民ニ代テ  
協同公議セシム乃チ議院憲法ヲ頒示ス各員其ノ之ヲ遵  
守セヨ

舊參議諸老輩ノ建議ハ言間々過激ニ涉リ言論或ハ其當ヲ  
失スルモノアリト雖モ要スルニ立憲ノ萌芽ヲ成長セシメ  
タル肥料ノ一ト爲ササルヲ得ズ加之民間ニ在テハ近時西  
洋事情、立憲政體畧等ノ著述アリテ其萌芽ヲ培養セリ以上  
叙スル所ノ者ニ就テ深ク其有様ヲ考フルニ本邦ノ國憲ハ  
寧ロ主治者ノ首唱ニ出芽スル者多ク其成長スル實ニ主被  
相依ノ力ニ由ル者也果シテ然リ故ニ本邦立憲ノ萌芽ハ今  
ニ至ルマデ温良ノ有様ヲ以テ成長シ吾人ヲシテ向來泰西  
ノ如ク主被相争ヒ鮮血ヲ以テ國憲ヲ腥カラシムルノ恐レ

ナカラシム吾人ハ之ヲ知テ豈ニ自カラテ賀セザラシヤ若シ  
其有様ヲシテ始終一ナラシメバ寔ニ賀スベキ者也

第一章第三節

本邦ニ立憲ノ想像ノ進歩シタル證。國憲設  
立ノ機會。國憲ヲ必行スルニ第一ノ要具、附  
リ裁定ノ義

本邦立憲ノ美妙ニ出芽シタル所以ハ既ニ前節ヲ以テ十分  
ニ説キ盡セリト信ズレバ予レ今述説ノ歩武ヲ進メ立憲ノ  
想像ハ如何ナル進動ヲ本邦ニ爲セルヤヲ簡易ニ吟味スベ  
シ予依テ低頭シテ之ヲ考フルニ初メハ其進歩ノ色アルヲ  
覺ヘ稍々驚キタリト雖モ再ビ之ヲ驗査スルニ及ンデ曩ニ  
予ノ退歩ト認メシモノハ却テ是レ進歩ノ證左ナルヲ見



出シタリ抑モ一事一物ヲ發見シ其未ダ世間ニ周知セラレザル間ハ人々互ニ之ヲ奇トシ相唱和レテ自カラ時ニ先ツテ示スト雖モ一旦社會ニ周知セラレ各人能ク之ヲ言ヒ自カラ平常ノ事ト成リ復タ新奇ノ觀アラザルニ至リテハ之ヲ唱和スルノ却テ時ニ後ル、ノ嫌アルヲ以テ自然ニ之ヲ止ム者ハ人情ノ常態ナリ諸君、試ニ地動ノ說ヲ見ヨ初メ其說ノ起ルヤ之ヲ唱フル者、之ヲ和スル者露々然トシテ互ニ之ヲ稱シ殆ンド復甚シヤガ如シ然レモ其想像ノ漸ク盛ンニシテ其說既ニ世ニ信ゼラレ各人皆ナ之ヲ說クニ及ンデヤ嚮ノ之ヲ唱和セシ者闕然トシテ聞ク所ナク殆ンド跡ナキガ如ク然リ惟フニ近時本邦ニ立憲ノ事ヲ唱和スル者、希ナルハ蓋シ之ヲ以テスルナル可シ故ニ突然其外見ヲ觀ハ

立憲ノ想像、或ハ退歩ノ形アリト雖モ人情ノ常態ヲ推シテ細ニ其内實ヲ察スレバ唱和ノ聲ノ今日ニ止ミタルハ立憲ノ想像ノ世ニ周知セラレタル所以ナルヲ知ルベキ也加之始メ立憲ノ唱和盛ンタルニ當リテヤ之ヲ唱和スルモノハ中、眞成ニ被治者ノ安堵ヲ重ンズルノ心ナク唯、之ヲ藉テ一時ノ私憤ヲ漏スモノアリ故ニ彼輩ニシテ既ニ其所ヲ得漸ク憤怨ノ露ル、アラハ最早、立憲ニ求メ無キガ爲メ必ズ其唱和ヲ止ム可シ是レ亦、立憲ヲ唱和スルノ聲ヲ今日ニ減ジタル一因ニシテ今、予ヲ以テ之ヲ見レバ之ヲ以テ立憲ノ想像ヲ退歩セシト爲スベカラザル也其故如何トナレバ饒ヒ若シ彼輩ヲシテ唱和ノ德ヲ今日ニ全フセシムルモ夫ノ立憲ノ主說者ヲ正算スルニ際シテハ到底、之ヲ除削セザルヲ



得ザル者ナレバ之ガ爲メ立憲ノ想像ノ進歩シタルガ如キ者ハ唯、其假裝ニシテ其實然ラザレバ也吁々既ニ之ニ由テ之ヲ進ムルナシ豈ニ復、之ニ由テ之ヲ退クルノ理アラシヤ予ハ寧ロ之ヲ稱シテ其腐敗ノ部分ヲ截斷シ新鮮ノ部分ヲ全フスト謂ハソ已而矣

本邦國憲ノ萌芽ハ彼ノ如ク美妙ニ發生シ其進歩ハ此ノ如ク夫レ速ナリ是レ吾人ガ海外千古未曾有ノ美事ヲ今日ニ專ラニスル者ニシテ蓋シ自カラ賀スベキ者也然リト雖モ予ヤ今、古今宇内ノ歴史ニ就テ之ヲ徵スルニ主治者被治者ノ相投合スルハ常ニ希ニシテ其相乖離スルハ常ニ多クレバ今日本邦ニ主被相投ノ美アルモ之ヲ千載ノ後ニ期スベカラザルヤ必セリ故ニ予ハ此際會ヲ時トシ無難國憲ヲ設

置シ其美ヲ千載萬祀ノ後ニ全フセソトテ望ムヤ甚ダ切ナリ然ルニ世ノ論者間々或ハ尙早ヲ以テ國憲ノ設立ヲ拒ム者アリ蓋シ是レ本邦人民ノ有様ニ就キ皮相ノ看ヲ下スソ謬誤ナル乎抑モ社會ノ公益ヲ思フノ切ナラザルニ由ル乎彼此、何レニ在ルモ吾人ハ爲メニ取ラザル也  
前段ニ述ベタル吾人ノ冀望ハ早晚ノ中、必ズ充ヌテ得ルノ景況アレバ予ハ更ニ論述ノ地步ヲ進ニ國憲ヲ必行スルニ被治者ノ剛毅正直ニシテ之ヲ固執スルノ能力アルヲ要須トスル所以ヲ説キ去ル可シ凡ソ法制ノ必ズ行ハレテ能ク其目的ヲ成就スルヲ得ルモノハ特リ之ヲ維持スルモノアリテ其裁定ヲ爲スニ由ルノミ故ニ法ニシテ若シ其裁定ノ法方ヲ欠カバ法、其要具ヲ失フガ故ニ終ニ法タルノ用ヲ



爲ザル也見ヨ民刑二法ノ如キ若シ判事ナル者アリテ能  
 ヲ之ヲ維持シ明カニ之ヲ裁定スルコトアラザラシメハ設ヒ  
 數千百條ヲ立テ之ヲ公ニスルモ民人其ク之ヲ遵守セザル  
 ヲ以テ其ノ徒法ヲラザル者殆ソド希也今按ズルニ民刑以  
 下諸法ノ如キハ其充用專ラニ被治者ノ邊ニアレバ主治者  
 能ク之ヲ維持シ其裁定ヲ爲スト雖ト夫ノ國憲ニ至  
 リテハ主治者自己ノ守ルベキモノ多ク其舉行ノ地ハ却テ  
 主治者ノ身上ニアレバ之ヲ維持シ其裁定ヲ爲ス者自カラ  
 他ニ在テ存セザルヲ得ザル也是レ被治者ノ剛毅正直ニシ  
 テ國憲ヲ固執スルノ能力アルヲ要スル所以ニシテ其能力  
 コソ實ニ之ヲ維持シ其裁定ヲ爲ス者也故ニ其被治者ニシ  
 テ若シ此能力ヲ有スル微モバ饒ヒ國憲ヲ設置シ明カニ之

ヲ書載スルモ主治者ノ錯用弄權ニ當リテ之ヲ争フコト能ハ  
 ザルガ爲メ國憲タル者能ク其効用ヲ奏スルコトナカルベキ  
 也之ニ反シ被治者ニシテ充分ニ其能力ヲ有セバ饒ヒ明記  
 ノ國憲ナカラシムルモ被治者タルモノ能ク人道ノ大本ト  
 古來ノ慣例トニ據テ主治者ヲ刺衝スルヲ爲セバ必ラズ其  
 擅横ヲ防禦スルヲ得ベシ予レ實ニ世人ノ熟知セル英佛ノ  
 故事ヲ以テ前言ヲ證ス是ヲ以テ被治者固執ノ能力ヲ培養  
 スルハ立憲ノ國土ニ於テ最モ務ムベキノ急ニシテ國憲ノ  
 必行一ニ此能力ヲ恃ムノミ矣  
 予ハ今因ニ裁定ノ意義ヲ畧叙シ此首章ヲ終ル可シ抑モ裁  
 定ナル文字ハ英語ノ「サシクシヨ」ヲ譯填シタル者ニシテ  
 元ト必罰ノ義ヲ帶ブレト雖ト單ニ必罰ト謂ヘバ唯ニ刑法



之ヨリニ畫限シ夫ノ民法上ニアリテ條約必行ヲ公ニ督促スルモノ建國法上ニ在テ必黜必陟スルモノ等ヲ含蓄セザルガ故ニ今新ニ之ヲ用キ以テ之ヲ識別ス

第二章第一節

國憲設立ノ大歸旨(詳説) 最多衆ノ最大安樂、

即チ眞利。眞利ノ意義。眞利ノ所存、即チ人

生ノ四大事。活度、富周、安固、平等ノ意義。四

大事ノ關係並ニ安固ノ最大要ナル所以

國憲ヲ設立スルノ大歸旨ハ既ニ第一章ノ首節ニ於テ畧説

セシモノアリト雖モ今、又試ニ英國ノ碩學ベンタム翁ノ所

説ニ取リ再タビ之ヲ説シニ實ニ最多衆ノ最大安樂ヲ謀ル

ニアリト謂ヘリ此僅々ノ語句、遠大ノ意味ヲ含蓄シ深ク之

ヲ弄味スルニ非ラザレバ能ク其蘊奧ヲ知ルベカラズト雖

モ今敢テ他ノ語詞ヲ用キ試ニ之ヲ解釋スレバ則チ國憲ヲ

設置スルハ、主、治、者、ノ、權、理、義、務、ヲ、畫、限、定、置、シ、以、テ、社、會、一、般、

ハ、眞、利、ヲ、謀、ル、爲、メ、ナ、リ、ト、謂、フ、ベ、キ、者、ハ、如、シ、然、リ、而、シ、テ、此

解語ヤ尙ホ單簡ニ過キ未ダ明解スベカラザル者アルハ予

レ更ニ一步ヲ進ミ社會一般ノ眞利、即、最多衆ノ最大安樂ハ

如何ナルモノニシテ何等ノ所ニ存スル者ナル乎ヲ吟味ス

可シ

眞利ノ文字ハ英語ノ「ユイチリチー」ヲ譯スルノミニシテ善

アリテ惡ナク苦ナクシテ歡アリ若クハ歡樂善根ノ多クシ

テ苦痛惡事ノ少キ稱ナリ然リ而シテ此語ハ邦語ノ利字ノ

如ク使用ノ如何ニ由テ其態ヲ致スノ嫌アレハベンタム翁



ハ之ヲ避ケンガ爲メ新ニ語詞ヲ造リ之ヲ最多衆ノ最大安  
樂トハ謂ヘリ故ニ眞利トハ社會公同ノ利益ヲ謂フモノ也  
ト知ル可シ而シテ其所存ハ實ニ人生ノ四大事ニ在リ  
人生ノ四大事トハ活度、富周、安固、平等ヲ謂ヒ人ノ能ク生命  
ヲ保チ歡樂ヲ全フスルモノ一ニ之ニ是レ依ルモノ也故ニ  
社會ノ眞利ハ之ヲ得ルノ多寡ニ應ジテ進退シ之ヲ得ルノ  
多キハ眞利ヲ進メ其寡キハ之ヲ退クルモノタルヲ知ル可  
シ是ヲ以テ夫ノ四大事ヲ做得來ルノ高度ニ全フスルハ  
政治ノ大要ニシテ諸法設置ノ大歸旨、皆ナ茲ニ在ルモノ也  
夫レ然リ是ニ於テ予ハ更ニ國憲ヲ設置スルノ大歸旨ヲ再  
說シ有衆ノ活度、富周、安固、平等ヲ全フスルヲ謀ルニ在リト  
云フ也

432

生存トハ吾人ノ生活スルヲ得ル所以ヲ謂ヒ富周トハ吾人  
ハ富饒ニシテ豊有ナル所以ヲ謂フ生存ハ吾人ノ在世ニ取  
リテ最モ切ナルモノニシテ苟モ其方術ヲ得ザル時ハ飢寒  
交々至リ死滅ノ外、又他アラザル也是レ性理ノ吾人ヲ強逼  
シテ東奔西走、拮据、止マザラシムル所以ニシテ之ヲ得ルト  
之ヲ得ザルトノ界ニ於テハ吾人ノ有様、夫レ亦憐憫不可シ  
富周ハ吾人ノ據リテ以テ之ヲ樂ミ又以テ飢寒ヲ免ル、  
一大保管ナレバ吾人ガ在世ノ有様ニ於テ少ラクモ欠クベ  
カラザルハ世人ノ熟知スル所也然リト雖モ吾人生存ノ基  
本ハ實ニ吾人ノ勞心勞力ニシテ富有ハ之ニ依テ取獲シタ  
ル生存ノ要物ヲ節儉シ始メテ致スベキモノナレバ專ラニ  
民人家居ノ交際ヲ治スルヲ以テ目的トスル民法ノ如キモ



尙ホ且ツ此二者ヲ直接ニ如何トモスル能ハス況ンヤ其專  
 門ニ非ラザル建國法ニ於テオヤ斯ク論ズレバ生存富周ノ  
 二者ハ取テ之ヲ立法ノ目的中ニ置クモ終ニ無用ニ屬スル  
 ガ如シト雖モ願ミテ生存ヲ得ルト富有ヲ保シスルハ立法  
 ノ第一歸旨タル安固アルニ依ルヲ明ニシ亦、生存、富周等ア  
 ルヲ以テ安固ノ始メテ必用ナル所以ヲ知ラハ立法施政ノ  
 際、那ノ二者ヲ度外視スベカラザルハ深ク考察スルヲ用  
 ズシテ明ナル可シ安固トハ吾人ノ福祉安樂ヲ護リ吾人ノ  
 禍災苦痛ヲ防ク所以ノモノヲ謂ヒ吾人ノ身体、財産、家權、政  
 權、名譽等ヲ安固ナラシム是也按ズルニ禍災苦痛ニ二ツノ  
 別アリ曰ク天然ノ災難曰ク人類ノ殘害、天然ノ災難ハ河水  
 ノ溢漲、海湖ノ洋漫、火災、瘟疫、地震、雷電、飢饉等ヲ云ヒ其起ル

性理ニ出テ間々避クベカラザルモノアリト雖モ若シ人作  
 ノ豫防ヲ欠クアラハ偶々以テ之ヲ増加スルニ足ルモノナ  
 レバ施政ノ際之ヲ豫防スルノ術ヲ講ズルハ又濟生救民ノ  
 一大要點ナリ看ム現ニ種痘ヲ以テ痘瘡ノ災ヲ防ギ檢疫ヲ  
 以テ虎列刺ノ傳染ヲ止ムルニ非ズヤ人類ノ殘害トハ他人  
 ノ我が安寧ヲ殘害擾亂スルヲ云ヒ内生外來ノ別アリ外來  
 ノ殘害トハ外敵ノ我ヲ殘害擾亂スルヲ云ヒ之ヲ保護スル  
 ハ實ニ政府ノ一大責任也内生ノ殘害トハ内國人ノ我ヲ殘  
 害擾亂スルヲ云ヒ二ツノ別アリ一ニ曰ク常人ノ我ヲ殘害  
 スルモノ二ニ曰ク官人ノ我ヲ殘害スルモノ常人ノ我ヲ殘  
 害スルモノハ世、稱スルニ罪人犯者ノ名ヲ以テシ國ニ刑法  
 アリテ之ヲ懲シ之ヲ防禦スルモノナリ官人ノ我ヲ殘害ス



ルモノハ在官者ノ其治民ノ權柄ヲ弄シ我が權理ヲ妨害ス  
ルモノヲ云ヒ之ヲ防禦シテ我ヲ安固ナラシムルハ特リ夫  
ノ國憲ノ在ルアルニ依リ余ノ本篇ヲ著ハス要、斯一邊ヲ説  
クニ在リ平等ノ意義ヲ民法等ノ上ニ在リテ説ケハ財産ノ  
平均交通ノ平齊等ノミヲ云フト雖モ國憲上ニ在リテ之ヲ  
説ケハ賞罰與奪ノ公平モ亦其中ニ含蓄セシメザルヲ得ザ  
ルモノナリ抑モ財産平等ノ想像ハ其形、美麗ニ似タルガ爲  
メ世ノ公平ニ熱中スルモノ時或ハ之レニ眩惑註誤セラレ  
無暗ニ之ヲ勸奨セント欲スルモノアリト雖モ平等ノ能ク  
平等タル所以ハ亦夫ノ安固ノ存スルニ依ルモノナレバ之  
ヲ害セザル丈ニアラザレバ能ク平等ノ想像ヲ實際ニ舉用  
スベカラザルモノナリ是ヲ以テ若シ誤テ之ヲ無暗ニ勸メ

ナハ安固ノ時ヲ失フガ爲メ富周ヲ謀ルノ念忽チニ消滅シ  
甚シキニ至リテハ生存ノ術ヲモ求ムルニ慵カラシメ平等  
ヲ謀ル所ノ主物ヲシテ迹ナカラシムルニ至ルモノナリ豈  
ニ慎ミヲ加ヘザルベケンヤ  
以上叙スル所ニ就キ輕々看了レバ四大事皆相ヒ分別シ互  
ヒニ其趣ヲ異ニセルニ似タリト雖モ仔細ニ實況ヲ看來レ  
バ四者ノ交通頗ル親密ニシテ互ニ相ヒ連接シ一ヲ擧ゲハ  
他ノ三者共ニ得ハキモノアルヲ知ルベシ譬へハ安固ノ如  
キ若シ一タビ之ヲ擧ゲハ生存モ得ベク富周モ得ベク平等  
モ亦タ隨ヲ得ベキナリ然リト雖モ時トシテ四者乃至二者  
ノ相ヒ伴ヒ難キ時ナキ能ハズ譬へハ平等ノ安固ニ於ケル  
ガ如キ彼ヲ勸メテ此ヲ害スルコトアリ吾人若シ此等ノ時



ニ當ルアラハ其最モ必用ナルモノヲ取リ其次ナルモノヲ捨ルノ外又他アラザルナリ故ニ豫メ四者ノ輕重ヲ比較シ彼此ノ關係ヲ一定スルハ立法ノ途於テ最モ切要ナルモノナリ依テ竊ニ之ヲ按ズルニ生存安固ハ本ナリ富周平等ハ末ナリ蓋シ安固ニシテ微セハ平等一日モ存セズ生存ニシテ微セハ富周終ニ存スルナケレバナリ是ヲ以テ生存ハ安固トハ立法ノ序ニ於テ最モ注意スベキモノニシテ富周ト平等トハ其次ナルヲ知ルベシ然リテ雖舊法制ヲ以テ直ニ生存ノ事ヲ催迫スベカラズ唯安固ノ一事ヲ舉ゲ以テ間接ニ之ヲ勸ムルヲ得ルモノナレバ法制上安固ヲ謀ルモノヲ擇テ生存ヲ謀ルモノ、上ニ置クハ又當然ノ理ナリ故ニ立法ノ最大要旨ハ夫シ安固ニシテ國憲ノ如キハ特ニ被治

者ノ安固ヲ謀ルモノナリ余故ニ立憲ノ大歸旨ヲ説テ主治者ノ暴政非治ヲ防禦シ被治者ノ安堵ヲ謀ルモノナリト云フ也

第二章 第二節

大歸旨ヲ得ルノ方法。官職應當ノ三原素即チ德義聰明胆勉。聰明ノ三別即チ學識果斷。余ハ立憲ノ大歸旨ヲ説シガ爲メ既ニ第一節ヲ設ケ反復推論シタレバ讀者ハ余ノ所謂ル立憲ノ大歸旨ナルモノヲ十分ニ了解セラルルベシ果シテ然ラバ余將サニ論説ノ步ヲ進メ此大歸旨ヲ全ラスルノ方法ニ説キ入ラントス。大歸旨ヲ全ラスルノ方法ヲ詳細ニ説シトナレバ其事柄以數多ナル此冊子ヲ百數十多ヲ重復ルニ非ラズレバ能ク



盡ス。能ハズ素ヨリ此小冊子ノ論說ヲ以テ満足スベキモ  
 ノニアラズト雖也。今試ニ其大要ヲ示サシニ實ニ一言ノ以  
 テ之ヲ蔽フアリ曰ク能ク其人ヲ得テ官職ニ適當セシム是  
 ナリ。コノ格言ハ古來ヨリ唱ヘシ太熟ノ語句ニシテ新發明  
 ト云フニアラザレバ讀者或ハ之ヲ疑ヒ他ニ新案ノ在ルベ  
 キヲ求メラルモノアルベシト雖也。古今ノ經驗事理ノ當然  
 ニ於テ夫ノ大歸旨ヲ全フスルノ方法ハ能ク其人ヲ得テ官  
 職ニ適當セシムルノ外又他術アラザルナリ。英ノ碩學ベン  
 タム翁ハ夙ニ眞利ヲ以テ本旨トシ政治ノ學ヲ講明シ政科  
 ノ題目ニ就テハ數々新案ヲ出セシ人ニシテ其實際ニ行ハ  
 レシモノ頗ル多シト雖也。其立憲ノ大歸旨ヲ全フスルヲ方  
 法ヲ說クニ至リテハ即チ之ヲ全フスルノ方畧夥多アリト

雖也。皆ナ勉メテ官職ノ應當ヲ增加スルノ一言ヲ出サズト  
 云ヘリ翁ノ所謂ル職ト應當ヲ增加ストハ余ノ所謂ル能ク  
 其人ヲ得テ官職ニ適當セシムルノ意ニシテ蓋シ之ヲ外ニ  
 シテハ饒ヒ新案アリト雖也。必ズ無用的ノ浮案ナルヲ知ル  
 ベシ然リト雖也。唯夫ノ太熟ノ格言ヲ舉ルノミニシテ止マ  
 ハ筆口大簡ニ過ルヲ以テ讀者或ハ云ハン斯格言ハ我レ既  
 ニ熟知セリ特リ之ヲ用フルノ術ニ乏シキヲ如何セント是  
 可然ノ歎ニシテ余モ亦嘗テ之ヲ憂ヒタリト雖也。頃々  
 ム翁ノ万邦必採國憲考案ナルモノヲ讀ミ官職應當ノ三原  
 素ヲ說クモノヲ見ルニ及ンデ稍々發明スル所アリ故ニ今  
 ソノ說ヲ取り之ヲ茲ニ述ントス  
 官職應當ノ三原素ハ一ニ曰ク務メテ官人ノ德義ヲ全フセ



シ。二。三。曰。勉。メ。テ。官。人。ノ。聰。明。ヲ。勤。メ。シ。ム。三。曰。ク。務。メ。テ。官。人。ヲ。シ。テ。活。潑。也。勉。テ。ラ。シ。ム。是。ナリ。

徳義トハ官人ノ實直ニシテ須臾モ社會一般ノ眞利公益ヲ忘レズ毎ニ之ヲ増加セント欲シ敢テ私利ヲ營ムコトナキヲ云ヒ勉メテ其徳ヲ全フスルハ官職應當ノ三原素中最モ大要ノモノニシテ苟シモ斯ノ原素ニシテ具備セズ少シニテモ其不足モ生ジナハ他ノ三原素ヲ全フシテ之ヲシテ聰明也勉ナラシムルモ遇々以テ利己ノ惡心ヲ實行スルニ足ラシメ社會ノ幸福ヲ損害スルヤ又言フベカラザルモノアリ余實ニ君主ノ姦雄ナルモノ、抑壓シテ民人ヲ治スルヲ以テ之ヲ證明ス願フニ夫ノ姦雄ノ君主ハ賦性聰明處事活潑ナルモ公ニ社會ヲ利濟スルニ其眞心即チ徳義ナキガ爲メ己レ

ノ私便ヲヨレ謀リ社會ノ公益ヲ性懺ト爲スモ今眞利ヲ愛シ社會ノ公利ヲ重シズ必心ヲ以テ之ヲ考フレハ豈ニ又之ヲ悲マザラシヤ

聰明ハ徳義ノ次ニシテニツノ小別アリ曰ク學識曰ク果斷是レナリ學識ハ古今ノ成敗事理ノ曲直ニ通ジ能ク眞利ノ所在ヲ講明スルノ識量ヲ云ヒ果斷ハ事ニ臨ミ其利否ヲ斷決スルノ能力ヲ云フ蓋シコト二者ニシテ存スルコトナクハ縱ヒ徳義ノ眞心ヲ腦中ニ寓スルアルモ其術ニ乏シキガ爲メ遂ニ其志ヲ實際ニ施行スルコト能ハザルモノナリ

也勉ハ事ヲ處スルニ勵精活潑ナルヲ云ヒ饒ヒ他ノ原素ヲ具スルモ斯ノ原素ヲ欠クアラハ事ヲ處スルノ往々時機ヲ誤リ能ク功用ヲ奏スルコトナカルベシ



故ニヨノ三原素ハ共ニ存シテ相發明シ官人ヲシテ其職分  
ヲ全フセシムル爲メ一モ欠クベカラザルモノナルヲ知ル  
ベキナリ

第二章第三節

主治者ノ徳義ヲ勸ムルノ要則附リ責任ヲ盡  
サシムル術。主治者ノ聰明黽勉ヲ勸ムルノ

要則。國憲ニ編入スベキ緊要ノ事項

看者既ニ第二節ヲ讀ミ官職應當ノ三原素ハ共ニ存シテ相  
發明シ官人ヲシテ其職分ヲ全フセシムル爲メ一モ欠クベ  
カラザルヲ了セハ必ず如何セハ能ク官人ノ徳義ヲ全フセ  
シムルニ足リ能ク之ヲ聰明黽勉ナラシムベキカト問フナ  
ルベシ余既ニ其必至ノ問案ナルヲ了知スレバ當テ先哲ノ

所説ヲ擇ビ既ニ吾ガ説ヲ極メシモノアリ乞フ試ミニ之ヲ  
以テ責問ニ答シ官人ノ徳義ヲ勸ムルニ八箇ノ要則アリニ  
ニ曰ク社會ノ輿論ニ原キ官人ヲ進退セシムベシ按ズルニ  
被治者ヲレテ主治者ヲ擇ハシムルハ主治者ノ徳義ヲ全フ  
セシムル第一要訣ナレバ成ル丈之ヲ斯點ニ導クハ國安  
ノ爲メ最モ切ナルモノナリ顧フニ主君ノ國土ニ於テハ斯  
要訣ノ充分ヲ用ユベカラザルモノアリト雖モ宰相以下ヲ  
輿論ニ依テ進退スルハ歐洲各土其例少カラズニ曰ク其  
暴惡ヲ逞スルニ足ルベキ權力ヲ官人ニ與ヘズ務メテ之ヲ  
滅殺スベシ三ニ曰ク善事ヲ施スニ足ルベキ權力ハ其自然  
ニ任セ少シク衰フルモ強テ之ヲ勸ムルヲ用ヰズ四ニ曰ク  
官人ニ付托シ治理セシムルハ公共ノ金穀ヲ勉メテ減殺ス



五ニ曰ク金穀ヲ付托スルノ時間ヲシテ勉メテ短カラ  
 シムベシ六ニ曰ク金穀ヲ取扱フ官吏ノ數ヲシテ勉メテ少  
 カガラシムベシ七ニ曰ク眞成ニ餘分ノ役ヲ服セシモリ  
 非ラザレハ餘分ノ給與ヲ爲スベカラス八ニ曰ク各官ノ責  
 任ヲ明示シ重ク之ヲ責ムベシ今按ズルニ各官ノ責任ヲ重  
 クスルハ其徳義ヲ維持スル爲メ最モ必要ナルハ人事ノ實  
 況ニ於テ明カニ徴スベキニシテ人々ノ熱知セルモノナレ  
 バ今更ニ之ヲ喋々スルヲ要セズト雖モ之ヲ盡サシムルハ  
 術ハ賞ニ在ル乎將テ罰ニ在ル乎ノ一問ニ至リテハ或ハ賞  
 ヲ以テ誘導スルノ温良ナリトシ或ハ罰ヲ以テ強逼スルヲ  
 適宜ナリトシ世未ダ一定ノ説ヲザルハ則チ依テ竊カニ之  
 ヲ考フルニ罰ニアラザレバ能ク督責ノ功ヲ全スルニ能

ハ然ルモノトシ蓋シ賞ヲ以テスレバ官人ヲシテ之ヲ望  
 ムハ心ヲ生ゼシメ自カヲ獎勵ノ効チ有ラズト雖モ罰  
 ナ恐ルハ心ニ比スレバ孰シカ切ナルハ智者ヲ待テシテ知  
 ルベケレバナリ之ニ加フルニ賞ハ大抵罰ノ結果其詳カナ  
 ルハ第七章賞罰ノ篇ニ於テ論述スルモノアリ讀者乞フ就  
 テ見ヨニシテ不斷之ヲ用ズベカラザルモノナレバ終ニ之  
 ナ以テ責任ヲ盡サシムルノ良策ト爲スベカラザルナリ是  
 ニ於テ余ハ更ニ一條ヲ要則ニ加ヘ罰責ヲ以テ官人ノ自任  
 ヲ強逼スベシト云フ罰責ニ四類アリ一ニ曰ク免黜ニテ更  
 ニ加刑ス二ニ曰ク免黜ス三ニ曰ク過失ヲ贖セシム四ニ曰  
 ク呵責ス五ニ曰ク懲罰ス六ニ曰ク懲罰ス七ニ曰ク懲罰ス八  
 官人ノ聰明黽勉ヲ勸ムルニ四ノ要則アリ一ニ曰ク各官ニ



就テ一々事務ノ試法章程ヲ定置シ責任ノ所在ト權力ノ限  
 界トヲ明示スベシニ曰ク試法章程ニ明示セル權限ヲ確  
 守スルノ實アラシムベシ三ニ曰ク人品ヲ檢閲シ才ニ應ジ  
 テ之ヲ用ユベシ四ニ曰ク勉メテ官人ノ給與ヲ減殺スルヲ  
 旨トスベシ以上四則其一則二則三則ハ別ニ標識ヲ要セズ  
 ト雖田其四則ニ至リテハ之ガ原ク所以ノ事理ヲ畧説スル  
 ヲ要須トス今速了ノ見ヲ以テ之ヲ考ラレバ勉メテ給與ヲ  
 減殺スルハ官人ヲシテ不滿ノ心ヲ抱カシメ遇々其職ヲ曠  
 フセシムベキノ勢ヒアルヲ以テ論者或ハ之ヲ非難スルモ  
 ノアラシ然リト雖田余ヲ以テ之ヲ見ルニ賢官明吏ノ能ク  
 其職ヲ盡シ機敏事ヲ處スルモノハ大抵己レノ才能ヲ實際  
 ニ施行スルヲ得ルノ快樂アルニ依リ其給俸ノ厚キニ依ラ

ザルモノ多シ而シテ厚キニ誘導セラレ始メテ勉勵ノ心ヲ  
 起スモノハ其薄キニ依テ又必ズ其志ヲ衰ヘシメ所謂給  
 俸ノ厚薄ニ依テ其徳ヲ二三ニスルモノナリ此輩ヲシテ焉  
 ンツ能ク社會ノ幸福安寧ヲ主ル主治者ノ位ニ居ラシムベ  
 ケンヤ決シテ吾人ノ安寧ヲ托スベカラザルナリ加之漫リ  
 ニ其給俸ヲ厚フセバ之レニ依テ種々ノ弊害ヲ生ズルコト多  
 シ余今實際ニ於テ親ク經驗セシモノハ一二ヲ擧ゲテ之ヲ  
 證センニ其給俸ヲ厚クセバ逸樂ニ流レ甚シキハ流連官ニ  
 負クベシ又其餘靡アルヲ以テ時々之ヲ用ヰテ愚民ヲ瞞着  
 シ私恩ヲ賣テ社會ノ公利ヲ害スルコトアルベシ又是レ一個  
 ノ官人ヲ富ス爲メニ數個ノ人民ヲ貧シカラシムルモノナ  
 リ是レ則チ官人ノ給俸ヲ勉メテ減殺スベキ所以ノ原理ニ



シテ之ヲ滅殺スベシト雖モ尙ホ且ツ國家大政以衝當リ  
 其煩擾ヲ顧ズ官人ト爲シトスルモアラバ斯レソ社會ヲ  
 利益スルヲ以テ自任シタル眞成ノ主治者ト云ツベシ西哲  
 ペンタム曰ク官職ヲ應當セシムルハ費用ヲ滅殺スルヲ要  
 ナリトスト夫レ之ヲ謂フ乎以上通シテ十三則ハ國憲ノ大  
 綱ト謂ツベキモノニシテ其德義ヲ全フシ其聰明胆勉ヲ加  
 セシムルニ足ラソ平是ニ於テ余ハ論述ノ方向ヲ一轉シ國  
 憲ニ編入スベキ緊要ノ事項ヲ簡約ニ說示シ以テ此章ヲ了  
 ルベシトスルニシテ其後ノ諸事ハ皆ハ國憲ニ編入スベキ緊要ノ事項ニ十二箇アリ其第一曰ク國郡  
 區畫ニ曰ク諸官ノ分權理三ニ曰ク諸官任免ノ制四ニ曰  
 ク民人身命ノ自主五ニ曰ク財產ノ自由六ニ曰ク名譽亦權

七ニ曰ク信仰ノ自由八ニ曰ク臨急持戒ノ自由九ニ曰ク結  
 社ノ自由十ニ曰ク言論ノ自由十一ニ曰ク新合新分ノ州郡  
 三許允スベキ特權十二ニ曰ク新屬ノ州郡三許允スベキ特  
 權是ナリトスルニシテ其後ノ諸事ハ皆ハ國憲ニ編入スベキ緊要ノ事項ニ三箇アリ其第一曰ク國郡區畫ノ關係。亞細亞ニ行ハレシ  
 前章本章次章トノ關係。亞細亞ニ行ハレシ  
 政府ノ想像ハ卑シキ故主論ノ根據ヲ泰西ノ  
 政府ノ想像ハ卑シキ故主論ノ根據ヲ泰西ノ  
 說ニ取ル事。政府ノ起立ノ諸說。政府ノ目  
 的。政府ノ三種。合衆政治ノ實際ニ行ハレ  
 難キ事。雅典ニ合衆政治ノ行ハレシ所以。  
 米洲聯邦ノ純粹ノ合衆政治ニアラザル事。  
 寡人政治ハ一得モナキ事付リ昔時印度ニ貴



## 族合議ノ政行ハレシ畧説

前章ニ次ギ國憲ノ一大要目ナル政權ノ義ニ説キ入ラシト  
試ミシト雖モ政權ノ所在ハ政体ノ如何ニ依テ變動スルヲ  
以テ先ヅ此章ヲ設ケ專ラニ政体ノ各種ヲ吟味シ孰レカ能  
ク政府ノ大歸旨ヲ得ルニ足ルベキヤヲ論定セザルヲ得ズ  
我が亞細亞ノ先哲中政府ノ事ヲ説ク者アリト雖モ其説ク  
所頗ル卑シク往々代神政治、家長專制ヲ以テ政ノ常トシ稍  
々進歩セルモノモ君主獨裁ノ治ヲ説クニ過ギザレバ余ハ  
此第三章ノ前段ヲ説クニ當リ勢泰西諸名家ノ説ヲ引テ立  
論ノ根據ト爲サルヲ得ズ是レ著者が心中ニ甚ダ耻ル所  
ニシテ其苦シキヲ嚮キニ本邦國憲發生ノ美ヲ説テ泰西人  
ニ代リタル時ノ情ニ似ザルナリ然レ雖モ斯耻心アルハ吾



人ガ文明ノ質域ニ進歩スルノ証左ナレバ余ハ之ヲ以テ自  
カラ慰セザルヲ得ズ  
依テ願ヲ泰西諸名家ノ政府ノ起立セシ所以ヲ説クモノヲ  
見ルニ或ハ曰ク公益ヲ謀ル爲メナリ或ハ曰ク人類生存ノ  
難ヲ避クル爲メナリ或ハ曰ク本原ノ約束ニ出ヅルナリト  
又其政体ノ變遷ヲ説クモノヲ見ルニ或ハ人智ノ進歩ニ依  
ルト云ヒ或ハ必然ノ勢力ニ依ルト云ヒ其所説千差萬別頗  
ル一ナラズ孰レカ是孰レカ非之ヲ擇ブニ難キ者アリト雖  
此之ヲ要スルニ本原ノ約束ヲ説クモノヲ除クノ外ハ各一  
隅乃至三隅ニ其理ヲ存シ未ダ一抹ニ塗却シ去ルベカラザ  
ルモノアリ然リト雖此今余ヲ以テ之ヲ見ルニ既ニ政府ノ  
形ヲ存シ其名ヲ下スベキモノアルニ至リテハ饒ヒ其起立



ハ謀益ニ依ルモ避難ニ依ルモ其變遷ハ人智ニ依ルモ必然  
ニ依ルモ之が目的トシテ謀ルベキモノハ社會一般ノ眞利  
即チ最多衆ノ最大福祉ニアラザルヲ得ズ故ニ余ハ私ニ以  
爲シ長シ這般難決ノ議論ヲ爲シ空シク時ヲ費シヨリハ寧  
ロ之ヲ爲ササルノ勝レルニ若カズト是ヲ以テ今敢テ深ク  
起立ノ根原並ニ其變遷ノ如何ヲ極メテ直入各種ノ政体ヲ  
吟味シ執レカ能ク夫ノ要點ヲ得ルニ易キヤヲ論定スベシ  
泰西政事學家ノ毎ニ説ク所ロニ據テ之ヲ云ヘバ政治ニ三  
箇ノ別類アリ一ニ曰ク有衆自カラ之ヲ爲ス二ニ曰ク數人  
ノ手ニ委シテ之ヲ行ハシム三ニ曰ク一人ノ手ニ歸シテ其  
爲ス所ニ任ス是世人ノ所謂ル合衆寡人獨裁ノ三治ナルモ  
ノニシテ宇内ノ政治万態ノ異アリト雖モ皆ナ斯範圍ヲ出



テザルモノナリ  
按ズルニ合衆ノ政治ヲ今日ノ人間ニ舉行スルヲ得ズ其美  
實ニ筆言スルベカラザルモノアルベシト雖也只之ヲ實行  
セハ或ハ政治ノ効ヲ奏スルコトナク甚シキハ終ニ有衆ヲ亡  
滅スルニ足ルベキ兆候アルヲ如何セン如是説キ出シ來レ  
ハ合衆政治ノ美ヲ妄信スル族ハ必ズ眼ヲ瞶シテ其故ヲ詰  
問スルナルベシ是余ガ好ンデ答辨ヲ爲スヲ欲スルモノニ  
シテ敢テ遲滯セズ之ガ答詞ヲ作ルベシ抑モ政府ノ事務ハ  
衆民ノ咸ク起テ手々ニ從事スベキモノニアラズ必ズヤ數  
十ノ人員ヲ用井之ニ從事セシメザルヲ得ザルモノナリ而  
シテ斯數十ノ人員ヲ用井トスルヤ有衆タルモノ其適當  
ノ人ヲ擇撰シ之ガ矩規ヲ制シ又之ヲ誤用セバ之ガ懲罰ヲ



行ハザルヲ得ス是レ則チ政治ノ三大權ナルモノニシテ苟  
モ之ヲ實行セソトナレバ有衆タルモノ必相會シテ同議セ  
ザルヲ得ザルモノナリ相會シテ同議スルハ有衆ノ最モ難  
スル所ニシテ若シ強キテ之ヲ爲サント欲スレバ衆民減ク  
職業ニ従事スルヲ得ザルガ爲メ國家ノ存亡未ダ知ルベカ  
ラザレバ也蓋シ有衆ノ存スルハ財産ノ存スルニ依リ財産  
ノ存スルハ唯夫ノ職業ニ従事スルニ依レバ也加之數万ノ  
衆民ヲ一時ニ集同セバ衆論多議殆ンド決案ノ期ナカルベ  
シ是レ合衆政治ノ今日ノ實際ニ行ハレザル所以ニシテ若  
シ強キテ之ヲ行ハントナレバ少ニシテハ政治ノ効ヲ奏セ  
ズ大ニシテハ有衆ヲ亡滅スベシ惟フニ世ニ合衆ノ政治ヲ  
妄信シ之ヲ主唱スル者ハ必ず有衆ノ存在ヲ憶ヒ政治ノ有



効ヲ謀ルナルベシ然ルニ其結果此ノ如ク夫レ不吉ナリ是  
レ實ニ思フベキノ點ニアラズヤ  
或人之ヲ駁シテ曰ク昔時希臘ノ一部ナル雅典ニ於テ人民  
ヲ總會シテ政務ヲ議シ裁判等ヲ爲シタルコトアリ是レ實ニ  
合衆政治ノ實行セラルベキノ証左ナリト余モ嘗テ希臘ノ  
舊史ヲ讀ミ之ヲ記スルアレバ敢テコレ無シト拒絕セズト  
雖モ之ヲ以テ他ノ凡例トナシ合衆政治ノ實行ヲ証シ難キ  
者アリ何アヤ曰ク雅典人口ノ多寡ハ史書記スルモノナシ  
ト雖モ其數ノ過多ナラザリシハ雅地加州ノ狹矮ナルヲ以  
テ証スベキモノニシテ斯土ニ於テ純粹ナル合衆政治ノ行  
ハレシ跡アルハ職トシテ此人口ノ少數ナルニ依ルコトアル  
ヲ知ルヘケレバナリ惟フニ今ノ時ハ昔時希臘ノ時ニアラ



不各國窺隙ノ密ナル決シテ雅地<sup>カ</sup>ノ如キ小邦ヲ以テ獨立  
 ヲ謀ルベカラザルナリ又幸ニ各土交通ノ便ナルアリテ能  
 シ少ヲ合セテ大ヲ爲スヲ得バ彼ノ如キ小邦ヲ以テ一國ヲ  
 建ルヲ要セザルナリ是雅典ノ例ヲ引テ之ヲ今日ニ証スベ  
 カラザル所以ニシテ若シ之ヲ今日ニ行ハゞ大衆會同ノ不  
 便ナル遇々以テ其國土ノ衰滅ヲ致スベキナリ豈ニ恐レザ  
 ルベケンヤ  
 本邦人ノ中泰西ノ事情ニ明カナラザルモノハ間々米洲聯  
 邦ノ政治ヲ以テ合衆ノ純粹ナルモノトナセルガ如シは大  
 ナル誤ニシテ爲ニ少シク辨セザルヲ得ザルモノアリ蓋シ  
 米洲聯邦ニ於テハ大統領元老官代議員等以下皆ナ民人ノ  
 撰舉ニ係ルト雖モ民人タルモノ直ニ起テ議政施政裁判ノ

三權ヲ實行スル者ニアラズ的切ニ之ヲ云ハバ被治者タル  
 モノ某々ノ主治者ヲ撰ビ爲政ノ事ヲ委任スルモノニシテ  
 所謂ル代議政治ナリ抑モ代議政治ノ合衆政治ニ殊ナル所  
 以ハ其文字ノ意義ノミヲ以テ了知スベキモノニシテ其性  
 質ノ如キハ余下段ニ於テ説クモノアリ唯本邦人ノ中未ダ  
 之ヲ知ラザルモノアリ故ニ米洲聯邦ヲ妄信シテ合衆ノ政  
 治ヲ採ルモノト爲シ合衆ノ政治ヲ實行スベキモノト爲ス  
 ニ至ル是實ニ謬誤ノ甚シキモノナリ  
 寡人政治ハ一ニ有族共治或ハ貴族合議ト稱シ政事ノ全權  
 ナ數人ノ手ニ攬包セシメ他ハ之ニ干與セザルモノヲ云フ  
 ナラクストン氏嘗テ其得所稿シテ曰ク能ク才智ニ富ムト  
 今余ヲ以テ之ヲ見ルニ氏ノ斯ク云ヒシハ何ノ見ル所アリ



テ然ルヤヲ詳ニセズ抑才力智識ナルモノハ人類更事ノ際  
 心腦ヲ勞役スルニ依リテ生ズル者ニシテ所謂ル自然ノ物  
 ニアラザルナリ故ニ心腦ヲ勞役スルコトナクハ才智ノ富ム  
 ベキ所以ナキナリ今惟ルニ夫ノ政權ヲ攬包シ之ヲ世襲ス  
 ルノ貴族ハ能ク心腦ヲ勞役スルコトアル歟今世間ノ既往ニ  
 經驗シタルモノヲ以テ之ヲ推スニ向來モ亦其稀ナルヲ知  
 ル蓋シ貴族ハ居所ニ豊饒ナルヲ以テ事ヲ更フルモノ稀ナ  
 レバナリ果シテ然ラバ貴族合議ノ才智ニ富ムト云フハ是  
 無縁ノ浮説ニシテ却テ之ヲ爲政ノ才智ニ乏シキモノト斷  
 言セザルヲ得ズ是貴族合議ノ以テ政權ヲ委スベカラザル  
 所以ノ一端ニシテ尙ホ別ニ之ヨリ甚シキモノアリ曰ク何  
 ヲヤ曰ク之ニ委スルニ政ヲ以テセバ自己黨類ノ私利ヲミ

ヲ營ミ以テ社會ヲ妨碍シ政府設置ノ旨ヲ損害スベシ抑モ  
 人類ノ言行ハ其思慮ニ由テ發シ思慮ハ其情欲ニ因テ動ク  
 モノニシテ一旦情ノ發動スルヤ心思先ツ自己ノ利益ニ及  
 ブ者ハ人類ノ本性ナリ而シテ斯ノ情欲ナルモノハ天地ニ  
 亘リ古今ヲ極メテ遂ニ消滅スベカラザルモノニシテ政府  
 ノ設ケアル實ニ斯情欲ヲ制御シ人民一般ノ利益ヲ謀ルモ  
 ノナリ然ルチ今政治ノ大權ヲ擧テ之ニ委シ世々之ヲ  
 攬包裝績セシメ外ヨリ之ヲ干預セザル時ハ貴族タルモノ  
 豈其情欲ヲ抑制シテ自カラ止マシヤ必ズ之ヲ逞シテ社會  
 ノ利益ヲ侵掠シ以テ自カラ利スベキナリ果シテ然リ故ニ  
 貴族合議ハ政權ヲ委シテ社會ノ利益ヲ謀ルモノヨアラザ  
 ルナリ噫々獨裁ノ政治ハ其失アリト雖モ尙ホ仁君ノ出ル



アルヲ等候スベクシテ稍々取ルベキモノアリト雖也貴族  
合議ノ政治ニ至リテハ斯望スラ能ク存スルコトナシ蓋シ貴  
族ノ中一二仁良ノ心ヲ抱クモノアルベシト雖也其全局ニ  
就テ之ヲ望ムベカラザレバナリ先哲嘗テ貴族合議ノ政治  
ヲ評シテ最モ惡ナルモノナリト謂フハ決シテ誣語ニアラ  
ザルナリ

余今因ニ昔時印度ノ地方ニ貴族合議ノ行ハレシ事ヲ記シ  
讀者ノ一槩ヲ博スベシ世ノ學者ハ大抵信ジテ亞細亞地方  
ニ立君獨裁ノ他政ノ行ハレシコトナシト爲モノ、如ク余モ  
又嘗テ之ヲ然リト爲セリ然ルニ頃口眞宗ノ法要典據ナル  
書ヲ看ルニ維摩佛經ノ証ヲ引テ毘那離國ニ君アルコトナシ  
唯々五百ノ長者アリテ共ニ國事ヲ理ス云々トアリ是レ正

シシ貴族合議ノ政体ニシテ之ヲ以テ之ヲ推セハ嘗テ印度  
ニ代議政治等ノ存セシコトアルモ未ダ知ルベカラザルナリ  
唯ダ惜哉余ヤ淺陋未ダ之ヲ記スルノ書ヲ見ズ故ニ今得テ  
明言スベキナシ噫



國憲論編卷之中

信陽

山岸文藏編纂

○國憲編制論第一

青木匡

國憲トハ國家ノ賴テ以テ建立シ又自他法制ノ由テ基礎ト爲ス所ノ根本法ニシテ其國家ニ缺ク可カラザルハ屋宇ノ柱ニ於ケル車輪ノ軸ニ於ケルニ異ナラズ故ニ時勢民情ノ万々已ムヲ得ザル者アルニ非ザルヨリハ他ノ通常法ノ如ク容易ニ之ヲ廢止變更ス可カラズ是レ他ナシ根本法ノ變更廢止ハ一國社會ノ構成上及び一般人民ノ權理自由上ニ大ナル餘響ヲ及ボササルヲ得ザレバナリ國憲ノ容易ニ變更廢止ス可ツザルヲ斯クノ如キヲ以テ始メテ之ヲ編制スルニ當テハ深ク古來ノ慣例現世ノ國狀及び人智開發ノ程



度ニ着目セザル可カラザルハ固ヨリ論ズルヲ待タズ之レ  
 ナ編制シ之レヲ確定スルノ順序モ亦其適當ヲ得ザル可カ  
 ラザルナリ  
 今ヤ歐米諸國々憲ノ基源ヲ尋ヌルニ人民ノ君主ニ遜テ之  
 ヲ設ケシメシアリ人民自ラ進ンデ之ヲ制定スルアリ又バ  
 政府自ラ之ヲ編制スルアリテ其ノ基源各々殊ナリト雖モ  
 其ノ國憲ヲシテ充分ノ効用ヲ社會ニ顯ハサシメント欲ス  
 レハ要スルニ人民ノ満足ヲ得ルニ非ラザルヨリハ決シテ  
 能ハザルベシ例ヘバ英國々憲ノ一部タル「マグナ、カ、タ」及  
 ビ「ビル、オフ、ライト」ノ如キハ孰レモ皆英國人民ガ國王ノ非  
 道ニ苦ミ遜ニ王ニ遜テ之ニ鈴印セシメタル者ニノ畢竟君  
 民間ノ約定書ノ如キ者ナルガ故ニ充分ノ満足ヲ人民ニ與

ヘタルハ固ヨリ明カナリ次ギニ米國々憲ノ如キハ殊更ニ  
 議會ヲ設ケ當時有名ノ代議士相謀テ之ヲ編制シ之ヲ討論  
 シ而シテ之ヲ各州ニ附シ各州ハ別ニ議會ヲ設ケテ之ヲ可  
 否論究シ遂ニ三年ノ久シキヲ經テ始テ十三州舉テ之ヲ採  
 用スルニ至リタル者ナルガ故ニ其人民ノ満足ヲ得タルト  
 亦明カナリ又次ギニ李國々憲ノ如キハ政府之ヲ草創セシ  
 者ナリト雖モ議院之ヲ脩正シ之ヲ承諾シテ後チ初チ實地  
 ニ施行セシ者ナルガ故ニ其人民ノ満足ヲ得タルトハ固ヨ  
 リ論ヲ待タザルナリ  
 然ラバ則チ今ヤ本邦將ニ立憲政体ノ地歩ニ進マントスル  
 ニ臨ミ我々天皇陛下ハ元老院ニ命ジテ國憲ヲ編草セシメ  
 而シテ之ヲ民選議院ノ討議ニ附スル平將タ民選議院ノ開設



ヲ待テ之レニ國憲ノ起草ヲ委スル乎ハ吾輩ノ得テ知ルベ  
 キ所ニアラズト雖モ其ノ編制ノ順序如何ニ拘ハラズ政府  
 ハ國憲ニ關シテ施行セザルベシ故ニ國憲編制ノ順序ハ姑  
 ラク置テ之ヲ論ゼズ吾輩ハ更ニ一步ヲ進メテ國憲編制ノ  
 目的ト并ニ我邦ニ於テ國憲ヲ編制スルニ當テ編制者ガ如  
 何ナル注意ヲ要スベキヤヲ詳論セント欲ス  
 抑モ國憲ノ目的ニ就テハ歐米學士ノ說固ヨリ異同ナキ  
 能ハズ或ハ止ダ官民兩間ノ權限ヲ確定スルノミチ以テ其  
 ノ目的ト爲シ或ハ官民兩間ノ權限ヲ確定スルハ勿論官衙  
 ノ構成及ビ施政ノ順序ヲモ定ムルヲ以テ其ノ目的ト爲ス  
 等一ニシテ足ラズ故ニ各國ノ國憲ヲ閱スルニ或ハ其ノ條  
 節ノ甚々簡單ニシテ百箇條ニ滿タザルアリ或ハ其ノ甚々

緻密ニ涉ル者ハ凡ソ二百箇條已上ニ及ブアリ然レモ吾輩  
 ナ以テ之ヲ見ルモハ國憲ナル者ハ國家建立ノ柱礎ニシテ  
 其ノ治安ノ保全ヲ得ルト否ラザルトハ實ニ主トシテ國憲ノ  
 良否ニ關係セルニ因リ之ヲ編制スルニハ自ラ其目的ヲ三  
 段ニ分タザル可ラズ即チ上ハ政府ノ威權ヲ限定シテ其ノ  
 擅横ニ流ル、下チ防ギ中ハ諸官衙ノ構成及ビ施政ノ順序  
 ヲ確定シテ敢テ亂ル、下チナカラシメ下ハ人民ノ權理自由  
 ナ保支シ并ニ之レガ權限ヲ制限シテ敢テ私意ヲ逞ウセシ  
 メザル、是ナリ而シテ其ノ國憲ニ由テ人民ノ權理自由ヲ  
 保支シ并ニ之レガ參政上ノ權限ヲ制限スルノ一段ニ至テ  
 ハ各國少異同ナキ、能ハズト雖モ要スルニ人民ガ權理自  
 由ノ充分ナル安全ヲ得ルハ其國土ノ如何ニテ問ハズ人民



ガ福利ノ最大ナル者ナルニ因リ此ノ事ニ關シテ歐米諸國ノ國憲中ニ於テ人民ニ與フルニ最モ充分ナル權理自由ヲ以テスル所ノ條件ヲ採取スルモ決シテ妨ゲズト雖モ其ノ第一及び第二段ノ目的即チ政府ノ威權ヲ限定シ并ニ諸官衙ノ構成及び施政ノ順序ヲ定ムル等ニ至テハ現ニ歐米諸國ニ行ハルノ所ノ最モ善良ナル者ト我邦古來ノ慣例ヲ適宜ニ參酌セザル可カラザルノ事情アリ故ニ國憲編制者ノ最モ注意ヲ要スル所ニ於テハ第一我邦ニ於テハ左右大臣ヲ置クベキカ第二上下二院ヲ設クベキカ第三上下二院ヲ設クルトセバ英國ノ制ニ倣ヒ華族ヲ上院ニ會同スルノ權理ヲ世襲セシムベキカ將タ上院議員ハ天皇陛下自ラ之ヲ特任シ給フベキカ第四國會ノ議決ト雖モ天皇陛下之

ヲ拒絕セバ忽チ廢案トナルベキカ將タ天皇陛下一旦之ヲ拒絕スルモ再ビ國會ニ於テ之ヲ可決セバ天皇陛下ト雖モ復タ再ビ之ヲ拒絕スルコト得ザル者トスベキカ第五太政大臣ノ在職年限ヲ定ムベキカ將タ其ノ政務上ニ於テ失策ヲ爲ササルノ問ハ其職ニ在ラシムベキカ已上ノ疑問是ナリ此他尙ホ國憲編制者ノ深ク注意ヲ要スベキ所許多アルベシト雖モ願フニ上ニ列舉スル所ノ者ハ所謂政體ノ本質ヲ組成スル者ニシテ頗ル政府ノ威權ト人民ノ權カトニ關係スル所アリ已上ノ諸疑問ニ就テハ吾輩異日ヲ待ツテ之ヲ詳論ス可シト雖モ之レヲ茲ニ一言シテ以テ世上君子ノ注意ヲ呼起セントスルナリ

○國憲編制論第二



余輩ガ曾テ草セシ所ノ國憲編制論第一編ニ於テハ所謂ル  
 國憲ナル者ヲ以テ其國民ノ權利自由ヲ保護シ并ニ之レガ  
 參政ノ權利ヲ制限スルノ一段ニ至ツテ各國固ヨリ少異同  
 ナキヲ能ハズト雖モ要スルニ人民ヲシテ其ノ權利自由ノ  
 安全ヲ得セシムルハ國土ノ如何ノヲ問ハズ政体ノ異同ヲ  
 論セズ人民ガ福利ノ最大ナルガ故ニ我邦ニ於テ苟クモ國  
 憲ヲ制定セント欲セバ歐米諸國ノ國憲中其ノ人民ニ與  
 ルモ最モ完全ナル權利自由ヲ以テスル所ノ條款ヲ採擇ス  
 ルニ於テ決シテ不可ナシ然レモ政府ノ權力ヲ制限シ諸官  
 衙ヲ構成シ及ビ施政ノ順序ヲ定ムル等ニ至テハ頗ル困難  
 ナル者アラント陳述シタリキ今ヤ余輩ハ一步ヲ進メテ  
 向キニ世上ノ君子ニ質サント希望シタル五疑問中ノ一即

チ我邦ニ於テハ左右大臣ヲ置クベキヤ否ヤハ一項ヲ論述  
 スルノ機ニ達シタリ余輩ハ之レヲ論ズルノ基礎ヲ造ルガ  
 爲メニ先ツ此ニ君主世襲法ニ就テ聊カ意見ヲ陳ベザルヲ  
 得ズ其然ル所以ハ他ナシ世上或ハ君主選立法ノ大ニ世襲  
 法ニ勝ルヲ想像スル者無キニ非ザルヲ知レバナリ  
 凡ソ一國君主ノ血統ニシテ其家系ヲ繼嗣スルト君位ヲ繼嗣  
 スルトハ其ノ間ニ於テ固ヨリ公私ノ區別アリ故ニ同統ノ  
 人ニシテ家系ヲ世襲スルハ可ナリト雖モ君位ヲ世襲スル  
 如キハ其ノ君主ノ初メテ一國社會ニ發顯シタル原因ノ如  
 何ニ拘ハラズ道理ノ一點ヨリ之ヲ觀察スレバ必ず不條理  
 カルヲ免レズ然リト雖モ人世自般ノ事獨リ理論ノ一方ニ  
 偏倚スレバ却テ社會ヲシテ非常ノ災害ヲ蒙ラシムルヲ往



々之レアリ然ル故ニ政体ヲ組成シ憲法ヲ編制スルニ當テ  
 ハ其ノ國ノ情勢ヲ以テ之レガ規矩準繩ト爲サル可カラ  
 ザルハ余輩ガ去ル十一日ノ新聞朝野新聞十二年十二月ヲ  
 云フニ於テ學士ノ通弊ヲ論ズルニ當テ既ニ陳述シタルガ  
 如キ者アリ然ラバ則チ君位世襲法ノ如キハ徒ニ理論ソ一  
 點ヨリシテ之ヲ難駁ス可カラザルヤ明カナリ故ニ余輩ハ  
 今世襲法ト選立法トノ實際上ノ利害得失ヲ比較シテ世襲  
 法ノ大ニ選立法ニ勝ル所以ヲ説明セント欲ス  
 抑モ選立論者ガ其ノ議論ノ金城鐵壁ト爲ス所ハ即チ秀才  
 絶群ノ人ヲ常ニ君主ノ位ニ在ラシメハ一國ノ政治益々  
 善實ニ赴キ從テ人民モ亦其ノ幸福ヲ保全スルヲ得ルニ  
 在リ吁嗟何テ論者ガ其ノ説ヲ爲スノ甚ダ粗ナルヤ蓋シ立

憲政体國ニ於テ君主ヲ選立スルノ數次ニ至レバ王位ヲ占  
 領シタル家族ノ數益々増加シ從テ舊ノ諸王家ヲ欽慕スル  
 ノ黨與ヲ國內ニ増殖スルノ恐レアリ其レ斯ノ如ク諸種ノ  
 黨漸ク一國ニ充滿スルキハ其ノ間ニ亦自ラ相忌ミ相嫌フ  
 ノ念ヲ生ジ國民常ニ相親和スルヲ能ハザルニ至ルベシ然  
 レモ論者或ハ曰ハシテ政黨ノ分裂ハ社會及ビ政治ニ最モ有  
 益ナル効驗ヲ生ズル者ナリト其レ然リ政黨ノ社會及ビ政  
 治ニ有益ナルヲハ余輩モ已ニ之ヲ識レリト雖モ夫ノ曾テ  
 王位ヲ占領シタル家族ヲ欽慕スルノ黨與ハ決シテ改進黨  
 及ビ保守黨ノ如キ施政ノ主義ヲ殊ニスル所ノ真正ノ政黨  
 ト同一視スベカラズ試ニ思ヘ舊王家ノ黨與ハ其ノ王家ガ  
 施政ノ主義ヲ主張スルノ黨與ナル乎否ナ彼等ハ徒ニ該王



家舊來ノ思威ニ感ジテ之ヲ復立センコトヲ希望スル者ニ外  
 ナラザル也然ラハ則チ真正ノ政黨即チ改進黨及ビ保守黨  
 ノ如キ施政上ノ主義相殊ナルニ因テ互ニ政權ヲ國憲ノ範  
 圍内ニ争フ所ノ者ト同日ニ論ズ可カラザルノミナラズ眞  
 成政黨ハ妨害ヲ爲スノ極メテ大ナル者ナリ且ツヤ帝王タ  
 リ統領タリ苟モ其地位ヲ一國社會ノ上ニ占ムル所ノ者ヲ  
 選立スルノ弊ハ夫ノ米國ニ於テ大統領ヲ選舉スルニ當テ  
 「デモクラット」黨レ「パトリカン」黨ガ互ニ其政權ヲ争フノ甚  
 シキヨリ動モスレバ干戈ヲ用ヒントスル如キノ情勢ニ至  
 ルコト屢バ之レアルヲ以テ易々知り得ベシ論者ハ其ノ政黨  
 ノ主頭タル者ガ帝王又ハ統領ノ地位ヲ占メザレバ則チ該  
 黨ノ主義ヲ政治上ニ實行スルコト能ハザル者ト思考スルカ

其レ然リ豈其レ然ラン凡ソ立憲王政國ニシテ政黨ノ互ニ  
 其ノ政權ヲ争フ時ニ際シ其ノ政黨ノ主頭タル者ガ自ラ君  
 主ノ地位ヲ占メザルモ君主ハ國會ノ中ヨリ諸政黨中ノ最  
 モ名望ヲ有シ及ヒ最モ拔群ノ才識ヲ備フル者ヲ舉ゲテ之  
 ヲ大宰相ニ任ズルヲ常トス而シテ該宰相ハ其ノ地位ヲ君  
 主ノ下ニ占ムルト雖モ其實ハ政權ヲ自家ノ手ニ握取スル  
 者ナリ是レ英國ノ現情ニ就テ識ルベキ也此クノ如ク君主  
 ハ常ニ政黨ノ公論ニ從ツテ自由ニ宰相ヲ選任スルガ故ニ  
 未ダ曾テ甚シキ紛擾ヲ政黨中ニ起サズ是ヲ以テ其ノ君主  
 タリ統領タル者ヲ選立スルニ當テ其ノ争論ノ容易ニ鎮靜  
 ニ至ラザルニ比スレバ大ニ情況ヲ殊ニスル所アリ其他選  
 立制度ヲ施行スルニ於テハ今日ハ君主タル者モ明日ハ臣



民トナリ從テ常ニ君民ノ間ニ親愛ノ情ヲ缺クノ恐レアリ  
 之レニ加フルニ選立ノ際ニ當テ權力ヲ保有スルノ輩ハ或  
 ハ人民ヲ恐嚇シ或ハ秘密ノ計策ニ由テ遂ニ其選ニ當ラン  
 一ヲ企謀スルノ弊害アリ尋常ノ人ニノ真正ノ後秀ヲ選擇  
 スルハ決シテ容易ナラサルガ上ニ更ニ恐嚇或ハ秘密ノ計  
 策ヲ施コス者アルキハ選立其ハ當ヲ失シ誤テ偽徳ノ小人  
 ナ選ブノ恐レアルコトハ西哲某ガ既ニ説述スル所ナリ  
 然リ而ノ世襲制度ニ於テハ舊王家ノ私黨ガ互ニ相猜忌シ  
 テ國民ノ親和ヲ妨ケ及ビ真正政黨ノ妨害ヲ爲コ無ク又諸  
 政黨ガ互ニ政權ヲ争フニ當テ其ノ爭論ノ容易ニ鎮靜セザ  
 ルノ恐レアルコト無ク又君民親愛ノ情ヲ絶テ或ハ誤テ偽徳  
 ノ小人ヲ選立スルノ弊害アルコト無シ社會ノ安寧ヲ保チ人

類ノ幸福ヲ全ウスルニ於テハ世襲制度ヲ選立制度ニ勝ル  
 コト萬々ナリ嗚呼世上ノ君子ヨ輕々シク選立制度ノ虛美ニ  
 欺カル、コト勿レ

○國憲三綱論

草間時福

語ニ曰ク人ハ私慾アリ、蓋シ此ノ言ヤ政治上ニ至大ノ關  
 係ヲ有セリ寔ニ余輩ノ警戒注察ヲ加ヘザル可カラザル者  
 ナリ人ニシテ果シテ私慾無クハ國家ノ主權ヲ二三執政  
 者ノ意想ニ任放スルモ可ナリ社會ノ利害ヲ政府一手ノ料  
 理ニ放棄スルモ可ナリ復タ何ヲ苦ンデ國憲ヲ制シ專裁ヲ  
 防キ限制ヲ設ケテ干渉ヲ禦クヲ用ンヤ君主獨裁ノ制度ハ  
 寧ロ簡便ノ至法ト謂フベキ也然レモ人間決シテ私慾アルヲ  
 免レザルハ、ミナラズ實ニ私慾無キ能ハザル者ナリ現ニ歐



州諸國ノ如キハ公然利己主義ヲ唱ヘテ國是ト爲シ毫モ耻  
 ゼト爲サズ却テ之ヲ以テ揚々得色アルニ非ラズヤ然ラハ  
 今ノ世界ハ私慾世界ナリ利己社會ナリ若シ此ノ際ニ於テ  
 適當ナル抑制限界ヲ設ケ上抑下凌ノ弊ヲ防ギ社會ニ互抑  
 交制ノ妙用ヲ逞ケスル無ンハ必ズヤ君主ハ自家一個ノ私  
 利ヲ達センガ爲メ國家ノ公權ヲ翫弄シ貴族ハ自家一個ノ  
 私慾ヲ達センガ爲メ國家ノ政權ヲ濫用スルノ思ナシト謂  
 フ可ラズ其ヤ直接ニ此事ナシトスルモ間接ニ此弊ナシ  
 ト謂フ可ラズ或ハ明々地ニ此思ナキヲ以テ暗々裡ニ此害  
 ナシト謂フ可ラズ故ニ社會ノ權力ヲ君主一人ニ附與セシ  
 カ君主ハ之レ以テ自己ノ私利ヲ達シ社會ノ利害ヲ犧牲ニ  
 スルヲ憚ラザルナリ又之ノ儘々タル有司ニ委託セシカ有

司ハ之レ以テ自己ノ威福ヲ張リ社會ノ利害ヲ傷害スルヲ  
 怠ラザルナリ夫レ然リ故ニ社會ノ利害ヲシテ鞏固ナラシ  
 メント欲セハ全社會ヲシテ其權力ヲ分擔セシメザル可ラ  
 ザルヤ明カナリ試ニ見ユ無名ノ軍旅ヲ起シテ無辜ノ人民  
 ヲ苦メ無定河邊ノ骨ヲシテ深閨夢裡ノ人タルノ歎アラシ  
 メ或ハ人民ノ膏血ヲ絞リテ自己ガ奢侈ノ消費ニ供シ或ハ  
 臣民ノ所有物ヲ攫奪シテ威福ヲ示シ或ハ賄賂愛憎ヲ以テ  
 裁判ヲ上下シ或ハ粗惡ノ貨幣ヲ鑄造シテ國庫ノ不足ヲ補  
 ヒ或ハ苛法ヲ設ケテ人民ノ口舌ヲ箝制ス是レ專裁ナル君  
 主ガ其公權ヲ翫弄シテ私利ヲ謀ルノ歴史ニ非ラズヤ又領  
 分ノ臣民ヲ奴隸ニシテ其權利ヲ剝奪シ己レニ逆フモノハ  
 之レヲ牢獄ニ繋ギ己レニ諛フ者ハ之レヲ顯達ノ地ニ擧ゲ



或ハ苛税ヲ課シテ人民ヲ苦メ無法ヲ行フテ自己ノ幸福ヲ謀ル是レ貴族ガ其ノ特典ヲ濫用ノ私慾ヲ恣ニスルノ歴史ニ非ラズヤ彼ノ嘗テ西班牙ニ於テ貴族僧侶ノ土地ハ永ク免税ノ特權ヲ有シオンガリニ於テ高貴ノ權官ノミハ皆關門税ノ免許ヲ受ケ而シテ佛蘭西ニテハ平民ノミ一國ノ公租ヲ負擔セシコアリ英國ニ於テモ嘗テブレックアクトニテル法アリ銃器ヲ携テ國內ノ兔園魚池ノ中ニ入レバ死罪ニ處セラレ、コアリ又蘇格蘭土ニ於テ貴顯ノ者ノ人民ヲ誘拐シテ之ヲ外國ニ奴賣スルコアリ又印度ニ於テハ「アラミ」ナルケストアリテ自己ノ黨與ノミヲ利スルノ特權ヲ有セリ我邦ノ往時ニ於テモ士族ハ無親ノ特權アリ又鶴ヲ殺メ死刑ニ處セラル、法アリ士分以上ニ非ラザレハ鷹ヲ飼

ヒ馬ニ騎ルヲ禁セラル、ノ制アリ斯クノ如キノ種類ハ古往近來ノ歴史ニ充滿シ一々之レヲ枚擧スルニ遑アラザル也然リ而シテ前條ノ事實ハ皆吾人ノ私慾アルヲ免レザルガ故ニ私慾アル人ヨリノ組織構造セラレ、ハ政府ハ如何ニ賢相良輔ハ漏數ナルモ如何ニ金科玉條ハ淵源ナルモ若シ茲ニ適當ナル制限抑制ノ存スル無シハ執政者ハ其權力ヲ濫用シテ之レヲ以テ自家一個ノ私利ヲ達スルハ器具ト爲スニ陷ルノ的例ヲ証明スル者ナリ況ンヤ其法政ノ金玉ナリ難ク其輔相ノ伊周其人ヲ得ルノ難キニ於テヲヤ夫レ然リ然ラバ一人數輩ノ爲メニ國家ノ權力ヲ玩弄セラレ人民永ク自由ヲ失ヒ不幸ニ罹ルノ弊害ヲ杜絶シ社會ノ權力ハ社會全体ノ公利ヲ規畫スルガ爲メニ使用セシメ人



民ヲノ毫モ畏懼スルヲ無キニ至ラシムルニハ堅固ナル鐵  
 壁堅築ヲ築キ之ヲ以テ執政者ノ干涉濫用ヲ抑制セザル  
 可カラズ是レ國憲ノ最モ國家ニ必用ナル所以ナリ而シテ  
 國憲ノ骨髓自由ノ命脈トモ稱ス可キ者ハ蓋シ三條アリ曰  
 シ國王ハ國會ノ許可ヲ得ルニ非サレバ如何ナル種類ニテ  
 モ租稅ヲ人民ニ賦課スルヲ得ズ(第一)一般ノ國法ニテモ一  
 時ノ國法ニテモ苟モ國法ト成ルニハ先ヅ國會ノ評議ヲ經  
 テ其ノ許可ヲ受ケザル可ラズ(第二)何人タリモ其罪狀ヲ明  
 記スル捕縛狀シムルアルニ非ザレバ牢獄ニ拘留スルヲ得ズ(第三)  
 之ヲ要スルニ國憲中ニ緊要ナル條規ハ固ヨリ一ニシテ足  
 ラズト雖モ就中此ノ三綱ハ最モ最上ノ地位ヲ占領スルモ  
 ノト謂ハサル可カラズ此ノ三綱ニシテ苟クモ鞏固ナルヲ

得バ他ノ條規ニ於イテ幾分ノ不充分アルモ之レヲ補充シ  
 テ政府ノ干涉ヲ免レ人民ノ自由幸福ヲ失フニ至ラザル可  
 シ若シ之レニ反シ良シヤ國憲ノ設定アルトモ此ノ三綱ノ  
 確然トシテ成立セザル以上ハ國家ノ公權ハ二三ノ執政者  
 ノ意想ニ依ツテ左右セラレ社會ノ公利ハ其ノ二三ノ私慾  
 ノ爲メニ犧牲トナルヲ免ル可カラザルナリ故ニ内ニ私慾  
 アル執政者ヲ制シテ外ニ公益アル結果ヲ生出セシムルニ  
 ハ此ノ國憲ノ三大綱ニ依賴セサル可カラズ  
 余輩今又國王或ハ政府ノ嘗テ行ヒタル的例ヨリシテ此ノ  
 三綱ノ最モ至要ナルヲ證明ス可シ若シ何シノ國王政府ニ  
 テモ其ノ私利私慾ヲ逞ウセント欲スル者ハ必ズ此ノ國憲  
 ノ三綱ヲ犯サントテ試ミザルハ無シ何トナレバ此三綱ア



レバ其私利私欲ヲ達スル能ハザレバナリ故ニ中古以來一部ノ英國史ハ國王ノ此ノ三綱ヲ破毀セント欲シテ人民ガ之レヲ防禦保持シタル歴史ト謂フモ可ナリ此ニ依テ之ヲ視レバ此三綱ハ國王政府ノ爲メニ頂門ノ針砭タルヤ毫モ疑ヲ容レザルナリ

我邦近來人民ノ立憲政体ヲ熱望スルヤ沛然トシテ水ノ下ニ就クガ如シ炎々トシテ火ノ原ヲ燃シガ如シ是レ他ナシ其ノ國會ヲ設立シ國憲ヲ制定スルニ非ザレバ自由幸福ヲ享受スル能ハザルヲ確知スルヲ以テナリ而シテ其ノ國憲ヲ設立スルハ如何ナル方法ニ依テ之レヲ制定スベキカ余輩別ニ意見アリト雖モ要スルニ余輩ハ國憲ノ制定ニ於テ此三綱ニ就キ最大ノ冀望ヲ囑セリ何トナレバ幸ニシテ國

憲ノ制定アルニ至ルモ若シ此三綱ニ鞏固ノ基礎ナシハ其ノ國憲ハ政府ガ其ノ私利ヲ達センガ爲メ國家ノ公權ヲ濫用スルノ弊害ヲ防禦救済スルノ鐵壁堅築ト爲スニ足ラザレバナリ余輩ハ猶後號ニ於テ此ノ三大綱ノ最モ緊要ナル所以ヲ陳述ス可シ

○國憲編制ノ順序

青木 匡

國憲制定ノ一ニ關シテハ此頃日報記者ト朝野記者トノ討論アリ今兩記者ガ討論ノ大旨ヲ擧グレバ日報記者ハ國會ヲ開設スルニ先チ國憲ヲ制定スルヲ以テ其順序ノ最モ宜キヲ得タル者ト云ヒ朝野記者ハ今日ハ未ダ國憲制定ニ從フベキ時ニ非ラズ全國ノ有志者互ニ結心協力シテ國會ノ開設ヲ政府ニ請願セザル可カラズ若シ將タ今日ニ於テ一



地方ノ人民ハ國會開設ヲ請願シ他ノ一地方ノ人民ハ國憲制定ニ力ヲ盡ス如キヲアラバ民間ノ國會論モ遂ニ政府ノ方向ヲ變セシムルニ足ルベキ勢力ヲ有スル能ハザルニ至ルト云ヒ未ダ其ノ凱歌ノ執レノ方面ニ起ル歟ヲ知ル可カラズ然レモ情々世上ノ形勢ヲ觀察スルニ公議輿論ハ已ニ國會開設ノ一點ニ傾向シタル者ノ如ク今日ニ於テハ一人ノ國會尙早論ヲ唱フル者ナシ勢ヒ斯ノ如シ我政府ハ遲クモ明年ニハ國會開設ヲ許可スルノ政策ニ出ヅルナルベシ諸君ヨ諸君ハ國會開クレバ則チ其ノ規成ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ慶賀スルヤ國會ハ民選議院一局ノミヲ以テ成立スルヲ得ベク將タ元老民選兩局ヲ以テ成立スルヲ得ベシ蓋シ一局ヲ以テ成立スルト二局ヲ以テ成立スルトハ

大ニ人民權力ノ強弱ニ關スル所アリ且ヤ國會ノ掌握スベキ權力ノ如キ固ヨリ國憲ノ組成如何ニ由テ大小強弱ノ別ナキヲ能ハズ然ラハ則チ今日ニ於テ國會開設ヲ願望スル者ハ亦今ヨリ國憲編制ノ一ニ注意スルハ吾輩ガ最モ嘉賞スル所ナリ況ンヤ國會ハ國憲ヲ制定スベキ者ニ非ラズ國憲立テ後チ國會之ニ從フベキニ於テチヤ又況ンヤ國會願望者ガ其ノ願望書ト與ニ國憲草案ヲ政府ニ奉呈スルニ於テハ若シ万一政府ガ國憲草案ヲ起シテ人民ノ會議ニ附スルニ當テ或ハ政府ノ參考ニ供スルノ益アルニ於テチヤ其レ然リ國會開設ニ先ツテ國憲ヲ編制スルハ其ノ順序ノ最モ正シキ者タルヲ固ヨリ辨テ待タズ然ラバ則チ諸君ハ政府ニ於テ國憲草案ヲ起シ之チ國民議會ニ附スルト國民議



會ニ於テ該草案ヲ起シ後テ政府ノ裁可ヲ得ルト孰レヲ取  
 リ孰レヲ捨テントスルヤ試ニ歐米諸國ノ國憲ヲ見ヨ米國  
 ハ即チ國民議會ニ於テ現行國憲ヲ編制シ之ヲ十三州ノ裁  
 定ニ附シ英國憲法ノ一部ナル權利ノ請願書及ヒ「ビル、オフ、  
 ライト」權利ノハ英國人民ノ手ニ成リ而シテ國王之ヲ裁可シ  
 タリ之ニ反シテ李國々憲ハ政府之ヲ草創シテ國會ノ議決  
 ニ附シ佛國現行國憲モ亦路易那勃翁之ヲ編制シテ同ジク  
 國民ノ聽斷ニ附セシナリ而シテ其ノ國憲ノ下ニ成ルト上ニ  
 成ルトハ誠ニ國民ノ權利ニ大ナル關係ヲ有スル者ニシテ  
 現ニ英米二國々憲ノ其ノ人民ニ權力ヲ與フルノ大ナルハ  
 李佛兩國々憲ノ政府ニ強大ノ權力ヲ與ヘ人民ノ權力ヲ減  
 縮セシガ如キ者トハ與ニ日ヲ同フシテ論ズ可カラザルモ

ノアリ是故ニ吾輩ハ日本國憲ハ其ノ草案ヲ國民議會ニ起  
 シ之ヲ政府ノ裁可ニ附スルヲ以テ其編制ノ順序ト爲シ  
 テ切ニ希望スルナリ

抑モ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルハ必ズ起草スベキノ理由  
 アリテ而シテ起草スル者ニアラズ唯一時ノ便宜ニ依ルノ  
 ナリ吾輩ハ以爲ラク國憲ハ政府ニ於テ起草ス可キノ理由  
 ナキニ之ヲ起草スル固ヨリ不可ナリ且ツ其便宜ト謂フ所  
 ノ者決シテ眞ノ便宜ニ非ラズ却テ非常ノ弊害ヲ其間ニ招  
 クコアルベシト請フ辭ニ其理由ヲ陳ベシ

第一今ノ日本政府ハ立憲政府ニ非ラズ即チ純然タル特  
 裁政府ナリ蓋シ純然タル立憲政府ハ國憲ニ依テ之ヲ  
 構成スベシ例ヘハ國憲ハ猶鑄形ノ如シ立憲政府ハ猶



被鑄物ノ如シ果、然ラバ被鑄物タルベキ政府ガ其ハ  
 鑄形ヲ造クルハ恰モ鑄形ニ由テ砲丸ヲ造ラズシテ砲  
 丸ヲ以テ鑄形ヲ造ラントスル者ノ如シ天下豈ニ斯ノ  
 如キノ理アラシヤ是レ吾輩ガ政府ニ於テ憲草案ヲ  
 起スヲ不可トスル第一理ナリ

第二今ノ日本政府ハ維新ノ功臣ヲ以テ組成スル者ニシ  
 テ維新ノ當時ニ在テハ廟堂有司諸君ハ拔群ノ人物ナ  
 ルベク亦人民ノ迷夢未ダ覺メザルノ時ナレバ政府ノ  
 處置ハ悉ク急進ノ處置タルモノ、如キモ今日ニ至テ  
 ハ大ニ之ニ反シ人民ハ即チ改進ノ位置ヲ占メ政府ハ  
 即チ保守ノ地位ニ止ル者ニ似タリ改進ト保守トハ政  
 治ノ主義大ニ殊ナルハ諸君ガ能ク明知セラル、所ナ

リ其レ然リ若シ政府ヲシテ國憲ヲ起草セシメバ或ハ  
 大ニ政府ノ便利ヲ謀ル猶李佛國憲ノ政府ニ向テ大ニ  
 ル、權カヲ與ル如キニ至ルハ恐レナシトセズ試ニ思ヘ  
 凡ソ人ノ家屋ヲ建築スルヤ之ヲ旅宿ニ用ヒ之ヲ割烹  
 店ニ用ヒ之ヲ通常商館ニ用フル等各々其ノ家屋ヲ建  
 築セントスル者ノ思想ノ殊ナルニ由テ家屋ノ構成ヲ  
 殊ニスルハ自然免ル可カラザルノ勢ナリ其レ然リ政  
 府ガ自己ノ權カヲ強フシ人民ノ權カヲ弱セシトスル  
 ノ精神ヲ以テ起草シタルハ國憲ハ自ラ政府ニ便利ナ  
 ル所アルニ至ルヤ必セリ已ニ其ノ精神ヲ殊ニセリ國  
 民議會ニ於テ僅ニ數十條ノ刪除修正増加ヲ爲スモ  
 決シテ人民ノ手ニ於テ直ニ國憲ヲ起草シタル如キノ



益ヲ見ザル猶家屋ノ窓戶及ビ入口ヲ改ムルモ其ノ間  
 取ノ尙不都合アルガ如シ是レ吾輩ガ政府ヲシテ國憲  
 ヲ起草セシムルヲ不可トスル第二理ナリ  
 第三既ニ政府ニ於テ國憲草案ヲ起スノ甚ダ不可ナルヲ  
 知ル然ラバ之ヲ起ス者ハ果シテ誰ゾヤ曰ク國民ナリ何  
 ナレバ則チ民ハ本ニシテ政府ハ末ナリ之ヲ詳言スレ  
 バ一國ノ主權ハ國民之ヲ掌握シ政府ハ唯民國ニ代テ  
 其主權ヲ用フル者ニ過ギズ再ビ之ヲ詳言スレバ人民  
 アリテ政府ヲ要シ政府アリテ人民ヲ要スルニ非ザレ  
 ハナリ其レ然リ國憲ヲ起草スルノ權カチ有スル者ハ  
 獨リ國家ノ主權者即チ全國人民ニ非ズシテ誰ゾヤ是  
 レ吾輩ガ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルヲ不可トスル第

三理ナリ

其レ斯ノ如シ若シ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルニ於テ以上  
 三ツノ不理アリ何ア國民議會ヲ開テ之レガ草案ヲ起サシ  
 メ以テ政府ノ裁可ヲ受クルノ順序ニ出テサルヲ得ンヤ  
 然ト雖ヒ我が政府ハ或ハ李佛兩國ニ倣テ國憲草案ヲ起シ  
 以テ之ヲ人民ノ會議ニ附スルノ手段ニ出ルモ亦知ル可ラ  
 ズ然ラハ即チ今日ニ於テ立憲政体ヲ熱望スルノ論者ハ各  
 々國憲ヲ起草シテ國會開設願望書ト與ニ之ヲ政府ニ上呈  
 セバ亦以テ万一政府ガ國憲ヲ起草スルノ參考ニ供スルノ  
 益ナシトセズ抑吾輩ハ政府ニ於テ國憲ヲ起草スルヲ好ム  
 好ム者ニ非ズ新立ノ國會ニ於テ之ヲ起草スルヲ好ム  
 者ニ非ズ唯特別ノ國民議會ヲ開テ國憲ヲ起草スルノ最モ



切要ナルヲ感ズルガ故ニ此ニ一言シテ聽衆諸君ニ質ス  
ト云爾

國憲論編卷之中終

國憲論編卷之下

信陽

山岸文藏編纂

○國憲ヲ立ル論

福地源一郎

座ヲ隣閣ノ上ニ爭フハ其爭ヤ權望ニ在リテ座ニ在ラザル  
ナリ若シ現象ナル爭座ノ一表ヲ將テ爭論ノ實因トセバ誰  
カ論者ノ眼光ノ紙背ニ透ラザルヲ笑ハザランヤ今ノ國憲  
ヲ建ルガ爲ニ其順序ノ急漸遐邇ヲ討議スルニ偏倚シ事勢  
ノ變ズルヲ覺エザレバ蓋シ亦コノ比ナリ吾曹豈ニ之ヲ識  
ラザランヤ而シテ尙コノ際ニ駐止シテ自ラ休マザル者ハ  
抑故アリ夫ノ座位ハ一時ノ口實ニ過ギザルモ永世ノ禮制  
ニ於テハ猶之ヲ等閑ニ附スルヲ得ズ況ンヤ國憲ヲ建ルノ  
順序ノ緊要ナル問題ニ於テチヤ主唱者が假用ニ出シ現像



ハ今日一轉シテ論者ガ眞意ヲ熟スルノ實地ト成ル之ニ抗  
 抵シ之ニ軋轉シテ他日爲ニ正理ノ大道ヲ驗出セザル可ケ  
 ノヤ是レ吾曹カ事勢ノ變換スルヲ願ミズ直チニ此問題ノ  
 歸着ヲ以テ利害得失ノ關涉スル所ト思惟スル所以ナリ然  
 リト雖モ吾曹ハ此ノ將來ノ實因ニ著眼スルニ偏シテ却テ  
 現像ノ實況ヲ棄テ遂ニ世人ヲシテ三級波高ノ魚化龍痴人猶  
 聖野塘水ノ評チ下サシム可ラズ故ニ今吾曹ハ現像如何ヲ  
 觀察セント欲ス何チカ今日ノ現像ト謂フヤ曰ク旗幟ヲ割  
 野ニ樹立シテ政治ノ目的ヲ抗論スル政黨ハ急進漸進ニ分  
 ル、ニ非ズシテ現ニ四派ニ分ル、ノ姿ヲ顯ハセリ何チカ  
 政黨ノ四派ト謂フヤ曰ク漸進黨曰ク集權黨曰ク急進黨曰  
 ク封建黨是レナリ此ノ四者ノ差異ハ音ニ氷炭相容レザル

ガ如キノミナラズト雖モ其出所ハ明ラカニ其源流ヲ同ジ  
 ウセリ何ヲカ其源流ト云フヤ曰ク之ヲ得レバ決歌トナリ  
 之ヲ失ヘバ悒鬱ト成ル者即チ是ナリ革命ノ事機ニ接續シ  
 勢ノ已ムヲ得ザルニ生ズル者ハ寔ニ一躍シテ之ヲ脱ス可  
 ラズト雖モ政府ノ實力ハ依然トシテ維新有功ノ二三強藩  
 ノ保有スル所ニ止マリ遂ニ世人ヲシテ三藩會社ノ名ヲ與  
 ヘシメタリ此ノ二三藩ハ必ラズ英才ノ淵藪ナルニモセヨ  
 官員ヲ概算スレバ其什中ノ幾分ヲ領シ省察ノ樞要ヲ細看  
 スレバ其咽喉ハ盡ク其扼據スル所タルニ付キ遂ニ世人ヲ  
 シテ情實登用ノ誹リヲ起サシメタリ藩政已ニ廢セラレ徵  
 兵已ニ行ハル文武ノ士ハ政府ニ擧ゲラル、ニ非ズシテ何  
 地ニ由テカ丹桂ヲ攀チ何處ニ向テカ青雲ニ上ルヲ得ンヤ



供給多クシテ需用寡ナシ自ラ信ジテ千里ノ驥馬ト思ヒシ  
 モ空シク華山ノ陽ニ歸テ驚驢ニ群シ北風ニ嘶キ北門ノ嘆  
 ラ爲ス彼ノ窮蹙林ニ投ズルニ當ル何ツ木ヲ擇ブニ違アラ  
 ノヤ識ニ定節ナク論ニ定見ナク彷徨トシテ依ル所ヲ覓メ  
 之ヲ得レバ決歡トナリ之ヲ失ヘバ悒鬱トナル敢テ怪ムニ  
 足ラザルナリ智識ノ君子ハ誰カ國歩ノ進歩ヲ期シ公平ノ  
 舉措ヲ望ミ彼ノ三藩會社ノ名ヲ忌ミ情實登庸ノ誅リヲ嫌  
 ハザル者ナカラシヤ而シテ其實際ヲ觀レバ決シテ之ヲ變  
 革ス可カラザルノ勢アルヲ以テ知ルモ之ヲ行フ能ハズ  
 彼ノ勢力アル首領ノ間ニ於テ勉メテ協同ノ狀ヲ爲スモ同  
 議ノ域ニ達セズ恰モウエスハリアノ盟約ニ於テ歐洲列國  
 ノ權衡ヲ均一ニセント企テタルガ如ク其成迹ハ期スル所

ニ相違シ名實ニツナガラ寡人政治ノ形狀ヲ顯ハスニ至ル  
 モ亦自ラ然ラザルヲ得ザル者ナリ世ノ所謂漸進黨ナル者  
 ハ政治ノ開明ニ赴クヲ望ムト雖モ銳意シテ情實ヲ棄テ自  
 家ノ勢ヲ熾ニルヲ得ズ國安ヲ保ツノ一點ニ汲々タルガ爲  
 ニ或ハ己ヲ枉ゲテ他ニ合セント謀リ或ハ他ヲ強テ己ニ協  
 セシメント望ムニ付キ一進一退互ニ撞著シテ進退點ヲ制  
 錮シ其弊ヲ識ラズ知ラズ自カラ因循ノ目的ニ陥ルヲ免レ  
 ザルナリ集權黨ナル者アリ其目的ヲ漸進ニ同フシタレモ  
 自他ヲ枉強シテ協同スルノ實ナキヲ知ルヨリ單一ニ理ハ  
 權ニ勝ザルノ活語ヲ標準シ政府ノ權ニ依リ強縣ノ力ヲ賴  
 ミ自己ガ可トスル所ヲ施行セント望ムニ付キ自カラ己ヲ  
 待ミテ他人ヲ壓シ政府ヲシテ文明獨歩ノ先進トシ天下ヲ



シテ之ニ從ハシメント期シ其弊ヤ舉措ノ間ニ於テ自カク  
 壓制ノ所爲タルヲ免レザルナリ急進黨ナル者ハ他人ノ權  
 路ニ擁據シテ已レテ悒鬱ニ軼軻セシムルヲ怨ミ我取テ彼  
 レニ代ラント望ノモ名望智識已ニ他ニ敵ス可ラザルヲ以  
 テ故ラニ公平ノ點ニ據テ城郭ヲ築キ民選議院ノ制ヲ設ケ  
 テ他ノ名望ヲ殺ギ勢力ヲ奪ヒ我ト權衡ヲ均一ナラシメ將  
 テ鼎立ノ地位ヲ保タント欲セリ世ノ悒鬱ニ苦ム者ハ之ニ  
 附テ名利ヲ博セント希ヒ世ノ激論ヲ好ム者ハ之ヲ援ケテ  
 不平ノ憤ヲ排セント冀フニ付キ其弊ヤ空論ニ流レ騎虎ノ  
 勢ニ迫ルヲ免レザルナリ封建黨ハ遽カニ其非ヲ明言シ降  
 ヲ進歩ノ門ニ乞ハザルモ或ハ其勢力ヲ失ハントテ恐ル、  
 ニ出ザルヲ得ザルナリ其志ヲ問ヘハ政治ノ進歩ノ爲ニ利

害交々生ズルヲ見テ利ヲ存シ害ヲ利スルヲ悟ラズ寧ロ利  
 害併セ失フノ勝レルニ如カズト信ジテ守舊ノ點ニ固着ス  
 而シテ悒鬱ノ才器ナクシテ昔時ノ門閥ヲ戀慕スル輩ハ爭  
 テ此下風ニ附キ期セズシテ進歩ノ障礙ヲ成サントスルニ  
 至ル其弊ヤ頑固ニ陥リ人民ノ幸福ヲ毀フ者タルヲ免レズ  
 若シ此四派ノ原因ヲセテ與ニ其名實ヲ同フセシメンカ假  
 令ヒ起仆得失ヲ黨論ノ上ニ招クモ亦必ズ秋柳ノ衰條ガ風  
 ニ隨テ依違スルガ如キ態ヲ顯ハスノ理ナカルベシ而シテ  
 此四派ガ失意ニ當リテハ悒鬱ノ爲ニ相合シ得意ニ際シテ  
 ハ決斷ノ爲ニ相離レ却テ一般ノ世論ヲシテ其理ヲ窺フモ  
 其實ヲ悟ルヲ得セシメザルニ至ル斯ノ如キモ猶ホ之ヲ  
 目シテ政黨ノ真正ナル抗抵ト謂フ可キカ嗚呼現像ノ離合



ハ巫山ノ雲雨ニ似タリ朝未ヨ夕ヲ知ル可ラズ何ツ能ク來日ノ變幻ヲ今宵ニトスルヲ得ンヤ

編者曰此ノ篇國憲ヲ立ルチ問題トスルモ其旨トシテ論スル所ハ政黨ノヲチ專ラトスルニ過ギザルモノ、如シ借ヒカナ其言ノ未ダ余ノ思フ所ノ點ニ達セザルヲチ然レモ又之ヲ論スルノ後チニ至テ尙ホ詳説アリシヤモ知ル可カラズ編者ハ未ダ其稿ヲ得サルヲ以テ遺憾トスルナリ

○

左ノ一篇ハ本年一月廿五日ノ喫鳴社演説會ニ當リ沼間君ガ井生村樓ニ於テ演セシ所ノ論説ニシテ吉田次郎君ノ筆記ニ係レリ今茲ニ騰録スルモノハ大ニ其高説ニ服

スル所アレバ也看者尋常一席ノ論説ト同一視スル勿レ

○普チク天下ノ俊傑ヲ招集シテ國憲ヲ制定セザル

沼間守一演

我輩眼ヲ放チテ明治十三年度社會ノ現況チ一瞥シ去リ人民ノ思想果シテ如何ノ點ニ在ル乎チ察スルニ日ニ月ニ曠曠トシテ進ミ今ヤ正ニ東トナシ西トナシ北トナシ南トナシ全國ノ八民相舉テ國會ノ設ケザル可ラズ議院ノ起サザル可ラザルヲ主張シ之ガ基礎ヲ作り之ガ階梯ヲ構フルニ至レリ其勢既ニ此ノ如シ矣國會猶早シノ論ハ地ヲ拂フテ消散シ我輩ノ耳朶ヲ打チテ已ザルモノハ唯四面國會設立論ガ捷シ一世ニ博セシ所ノ慶賀ヲ表スル凱歌アル耳其然リ時勢此ニ到ル國會ノ憲法如何シテ制定スベキ乎是レ



我輩ガ之ヲ講ジ之ヲ議セザル可ラザルノ第一問題タリ我  
社友タル肥塚龍氏ハ毎日新聞ノ論場ニ上リテ細カニ國會  
設立ノ方法ヲ説キ其ノ一局議院トナス可キヲ論據トセリ  
於是乎世ノ論士ハ皆熱心ニ其方法ニ注意シ甲ハ曰ク英米  
ノ憲法体裁其當ヲ得タリ宜シク取りテ則トスベシ新ニ之  
ガ結構ヲナスハ舊規先例ヲ摸型トスルノ得ザルニ如カズ  
ト乙ハ曰ク一院ノ決議ニ止マルハ二院ノ密ナルニ如カズ  
ト此ノ如クニ討論難議陸續相接シ相切蹉シテ止マザレバ  
而今而後純美ノ方法必ズ其結局ヲナスヤ必セリ是レ我輩  
ガ中心欣喜スル所ノモノナリ  
此ノ如クニ人民ノ議論ハ社會ニ旺盛ナリト雖モ社友ガ唱  
フル一院論モ終ニ一家言タルニ過ギズ之レニ反セル兩院

説モ同ジク一個ノ私言ニ止マリ並ニ其實効ヲ社會ニ舉行  
スル能ハザルハ遺憾ノ至リニ堪ヘザルナリ然ルモ風潮既  
ニ此度ニ達シタルハ本年ノ結尾乃至明年ノ端首ニハ遲ク  
モ其設立ヲ看ルニ至ラント又疑ヲ容レズ論ジテ此ニ到レ  
バ我輩ハ國會果シテ何物ニ依テナル可キヤヲ究極セザル  
可カラズ抑モ吾人ハ貴重ナル國會ヲ以テ政府ガ發スル一  
二ノ布告ニ依リテ成立スルヲ欲スル乎將タ吾人が信據ス  
ル所ノ輿論ヨリナルヲ欲スル乎此ニ於テ我輩ハ斷ジテ云  
ハントス普ク俊傑ヲ天下ニ召集シテ國會設立ハ憲法ヲ制  
定セザル可ラズト今此レヲ細説セシニ政府ハ政府ノ所論  
ヲ述ベ應招ノ士ハ同ジク其所見ニ就キ其方法ヲ講究シ朝  
野ノ旨趣ヲ合併シ以テ國憲ヲ製スルノ意ニ外ナラズ將タ



一篇ノ布告ニ依リテ此國會ヲ設立スルモ敢テ妨ケナキガ  
如シト雖モ布告ナルモノ果シテ如何ナル性質ニ於テアル  
ヤヲ察スルニ單ニ一命令ニ過ギザルナリ命令猶可ナリ其  
成立ノ時ニ至リ吾人ハ果シテ之ニ満足セン乎必ズヤ其意  
ニ充分セザル所ノ念慮ヲ引出シ來ルハ數ノ免カレザル所  
タリ國憲立ツノ盛名アリテ吾人ガ満足セザルノ實アルハ  
果シテ我輩ノ企望スル所ナル乎我輩ハ飽迄モ其充分ヲ希  
ヒ満足ヲ望ントス其故他ナシ不充分ナル感想ヲ國憲ニ抱  
クハ寧ロ之レ無キニ勝ルヲ以テナリ今一步ヲ進メテ之ヲ  
論セバ若シ憲法ヲシテ布告ニナラシムル如キ國憲頒行ノ  
時ニ此條穩ナラズ宜シク修正シテ此ノ如クニスベシ此目  
繁冗ナリ宜シク刪リテ改正スベシト一條一日毎トニ比々

トノ論議ヲ招クヤ必セリ然ラバ則チ其修正ノ事欸益シ瑣  
些ニ非ザルベシ抑モ國會ノ設立スルヤ其急ニ又切ニ討議  
ノ論究スベキノ件々曰ク法律、曰ク財政、曰ク軍務、曰ク外交、  
曰ク商務、曰ク農事等其數實ニ山積蝟集枚舉ニ遑アラズ然  
リ而シテ姑ク其事ヲ後ニシ先ヅ國憲ノ條目ヲ修正スルニ  
汲々タルアルノ勢ニ際スル如キアラバ豈ニ國會議員ノ一  
大遺憾ナラズヤ之ニ反シ朝野連合シテ國會憲法調査委員  
ヲ置カハ前ニ陳ズル如キノ障礙ヲキヤ明々白々ナリ  
反對論者或ハ云ハソ草莽豈ニ幾許ノ名士アラソ明治昭代  
ノ俊傑ハ皆明治政府ガ網羅スル所タリ脫網ノ小鱗細羽以  
テ盛酌ノ卓上ニ列スベカラズト之ヲ實ニ實際ヲ知ラザル  
ノ藝語ノミ今ノ時ニ當リ民間焉ク人傑ナシト云フヲ得ソ



帷ヲ垂レ書ヲ講ジ以テ一門戸ヲ張リ或ハ政治論場ニ馳騁シテ以テ盛旆ヲ建ツルノ大家輩穀ノ下殆ンド百ヲ以テ數フ况ヤ自他三府卅六縣ノ廣キ豈ニ其人ニ乏シトナサンヤ斯ク我輩ガ切ニ天下ノ俊傑ヲ集ムルヲ主張スルノ理由ハ他ナシ今ヤ世ヲ舉テ滔々國會ノ期既ニ迫ルヲ説クト雖モ顧ミテ政府ノ現象ヲ觀ルニ意ヲ國會ニ注ギ以テ國憲ノ成立ヲ謀ルノ紳士能ク幾人カアル偶々之レアルモ宛カモ東方漸ク白ク殘月餘魄ヲ留ムルノ際小星二三稀レニ其光ヲ放ツガ如ク僅々數人ニ過ギザルノミ決シテ廟堂皆然リト云フ可ラズ若シ實ニ我政府ヲシテ國會設立ニ熱心ナラシメハ其ノ織ノ易キ吾人ガ野ニ熱望スルノ比ニアラズ豈今日ニ至ルモ猶其成立ヲ見ザルノ理アラシヤ其レ斯ノ如ク

敢テ國會ノ設立ヲ熱望セザルノ紳士ヲシテ專ラ其憲法ヲ制セシムルガ如キ其好結果ヲ得ザルヤ識者ヲ待タズシテ知ル可キナリ故ニ我輩ハ國會設立ニ熱心ナル在野ノ俊傑ヲシテ之ガ憲法ヲ制定セシムルニ非レバ社會ニ不充分ノ事實ヲ播クハ萬々疑ヲ容レザル所ナリト明言セザルヲ得ズ

我輩ノ説ク所此ノ如シ人或ハ云フ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ招集スベキヤト曰ク之レ容易ク政府ヨリ其名ヲ指シテ以テ之ヲ致スヲ得ベシト雖モ若シ一層ノ善良ヲ要セハ高知ニ何人岡山ニ何人福岡ニ何人ト其數ヲ限リ之ヲ其縣人ニ委シテ普通ニ撰舉セシムモ亦可ナリ何ツ其方法ニ苦ムアラシ又或ハ云フ此事頗ル煩雜ニ涉リ憲法制定ノ至急ヲ



要スルニ反シ之ガ前進ヲ妨グル者ナリト其然リ豈其然ラ  
 シヤ招集ヲナスノ手段固ヨリ煩雜ナラザルヲ得ザル者タ  
 リ物ノ善良ヲ謀ルニ當リ豈ニ多少ノ煩雜ヲ厭フニ違マア  
 ラン況ヤ經國ノ一大事業ヲ起シ政治ノ基礎ヲ定ルノ時ニ  
 際セルヲヤ回顧シテ千七百年間佛國ニ於テ創設セシ所ノ  
 三民議會ノ當初ニ徵スルニ今我輩ガ陳ズル所ト一般ナリ  
 故ニ我輩ハ滿場諸君ト共ニ此ノ說ヲ社會ニ擴充シ國會憲  
 法ノ政府自己ノ手ニ出テ布告ト共ニ成ルヲ望マズ在野ノ  
 俊傑ニシテ一時天下ノ代議士タルモノ、與リテ調査スル  
 所ノモノニ成ルヲ切願スルノ持論ナルヲ以テ豫メ此ニ衷  
 情ヲ呈露スルコト然リ

○國憲ヲ維持スルニ德義ヲ以テスルノ說

帝室ニ君威アリ議院ニ特權アリ人民ニ自由アリ此三者ヲ  
 シテ並行レテ相悖ラシメザル者ハ夫レ國憲ノ力ニアル乎  
 而シテ此國憲トハ帝室ノ勅諭ニ由リ或ハ君民ノ協議ニ由  
 リ或ハ臣民ノ強請ニ由リテ制定セラレタル憲法之謂乎、曰  
 ク否カノ制定憲法中ニハ或ハ國憲ノ名アリテ國憲ノ實ナ  
 ク繼ニ法權ヲ以テ上下ヲ約束シ未ダ精神ヲ以テ人意ヲ檢  
 束セザル者アルガ故ニ其力ハ以テ君威特權自由ヲ鼎立シ  
 テ社會ノ福祉ヲ保攝セシムルニ足ラザレバ也、何ヲ以テカ  
 之ヲ知ル、曰ク史乘ノ述ニ就テ之ヲ知ル也夫レ歐ノ大陸諸  
 州ノ間ニ於テ憲法ノ最モ精緻ナルヲ擇バ、蓋シ佛國ヨリ  
 善キハ莫シ而シテ其所謂ル國憲ハ果シテ其帝室ノ爲メニ民  
 威ヲ存シ其議院ノ爲メ特權ヲ保チ其人民ノ爲メ自由ヲ全



ウシ以テ社會ヲ泰山ノ安ニ置キタル乎讀者若シ佛國史ヲ  
 緋キ第十八百紀ノ末ヨリ今時ニ至ルマデ僅々八十餘年間  
 ニ於テ其興亡變遷セシ所ヲ徵セバ吾曹ガ言ヲ待タズシテ  
 自ラ其然ルヲ證明スルヲ得ベシ故ニ曰ク制定憲法ハ未ダ  
 盡ク國憲ノ力アリト云フ可カラザル也  
 然ハ則テ國憲ノ力ハ果シテ何處ニ生ズル乎曰ク公衆社會  
 ノ德義ヲ以テ之ヲ維持スルニ生ズル而已試ニ之ヲ英國ニ  
 徵セシニ夫レ有名ナル大典保自律、權理訴狀、權理法例ノ數  
 令ヲ除クノ外ニシテ何等ノ憲法ノ能ク英國ノ上下ヲ約束  
 スル者アルカ此數令ト雖モ實ハ帝室ノ勅諭或ハ議院ノ法  
 例ニシテ純乎タル憲法ニハ非リルナリ況ヤ第十七百紀ヨ  
 リ以來ハ絶テ斯ノ如キ法制ノ緊約スル者アルヲ見ザルニ

於テヲヤ而シテ政權ノ改進スル所ヲ顧ミレバ成文律典ニ  
 ハ會テ一條ノ制定ヲ當時ニ留メズト雖モ實際ニ於テハ驚  
 クベキノ進歩ヲ成シ凡ソ一般ニ是認スルノ法訓ハ盡ク之  
 ヲ舉行シテ今日ノ隆盛アルニ至レリ其然ル所以ノ者ハ蓋  
 シ國憲ト法律トハ其作用ヲ異ニスルヲ悟リテ國憲ヲ維持  
 スルニハ專ラ德義ヲ以テセシガ故ナリ、何ヲ以テ之ヲ證明  
 スル乎、曰ク議院ノ現行ヲ以テ之ヲ證明スル也夫レ成法ニ  
 背キ定律ヲ犯ス者ハ其官ト民トヲ問ハス法官得テ之ヲ聽  
 キ法律得テ之ヲ罰スベシト雖モ輿論ノ向背ニ應ジテ宰相  
 ヲ黜陟シ國是ヲ轉換スルヲ得ル者ハ即チ議院ニシテ國憲  
 アリテ之ヲ行ハシムルナリ此國憲ハ判然タル成文ナキモ  
 冥々中ニ在リテ法律ハ對向シ威武モ之ヲ屈セシムル能ハ



ザルノ勢力ヲ成スガ故ニ既ニ千八百四十一年ノ國會ニ於  
 テソルロベルトビールハ當代ノ宰相メルボルン侯ノ内  
 閣ヲ退免セシムルノ動議ヲ下議ニ發シ英廷ノ内閣ハ下院  
 ノ信依ヲ得ザルカ故ニ其在職ハ乃チ國憲ニ戻ル者ナリト  
 言出シ多數ノ決ヲ以テ之ヲ退ケ遂ニ更迭ヲ行ヒタリ此國  
 憲ニ戻ルト云ヒシハ法律ニ戻ルノ謂ニ非ズ政理ノ適正ヲ  
 以テ直ニ之ヲ國憲ト認メ國憲ニ向テハ帝王ト雖モ將相ト  
 雖モ抗抵ス可カラズト信ジタルニ外ナラザルナリ然ラザ  
 レハ彼ノ内閣ハ假令ヒ下院ノ信依ヲ得ザルモ何ノ法律ニ  
 違背シタル乎英國ノ法律ニ於テ内閣ハ下院ノ信依ヲ得  
 ル可カラズト制定シタル乎又下院ハ何ノ法律ニ於テ帝廷  
 ノ勅任タル内閣ヲ退黜セシムルノ權利ヲ附與セラレタル

乎以テ國憲ノ自カラ法律ト其作用ヲ異ニシ上下之間互ニ  
 德義ニ據リテ國憲ヲ維持シ君威特權自由ノ三者ヲシテ各  
 各其所ヲ得セシムルヲ知ルベキ也  
 之ニ由テ是ヲ觀レバ我邦ニ於テ未ダ成文國憲ノ制定ヲ今  
 日ニ見スト雖モ政理ノ煥發スルニ從ヒ自由ノ伸暢スルニ  
 由リ國憲ノ真相ハ隱然社會ノ間ニ興起シテ漸ク鎖磨ス可  
 カラザルノ勢ニ至リ須臾モ其擴充ヲ止メザルガ如シ例ハ  
 吾曹試ニ官吏ニ向ヒ云々ノ處分ハ我ニ壓制ヲ加フルナリ  
 ト云ハハ彼必ズ力メテ其處分ノ壓制ニアラザルヲ辯解ス  
 ベシ然リ壓制スルトハ答ヘザルベシ例ハ有司ニ向ヒ某々  
 ノ條件ハ我ガ自由ヲ妨ルナリト詰ラバ彼必ズ勉テ其條件  
 ノ自由ヲ妨ルノ意ニ出デザルヲ分疏ベシ寔ニ汝ガ自由ヲ



妨害スルガ爲也トハ云ハザル可シ何故ニ然ルカ我邦ノ律  
 令中ニハ會テ官吏ハ壓制ノ處分ヲ爲ス可ラズ有司ハ自由  
 ナリ妨害スルノ條例ヲ行フ可カラズモ明示セズト雖モ壓制  
 ヲ憎ミ自由ヲ尊ブノ精神ハ上下之間ニ於テ政理ノ主義ヲ  
 成シ恰モ黙約之勢ヲ得タルガ故ニ非ズヤ是即チ德義ヲ以  
 テ既ニ國憲ノ一部ヲ冥々ニ維持スルノ確證ト云フベキ也  
 此ノ精神ヲ發揮シテ以テ進取ヲ懈ラザル時ハ國憲ノ成文  
 制定ノ日ヲ待タズシテ時々刻々ニ確立シ君威特權自由ノ  
 三者ヲ並ビ行レテ相悖ラザルノ化域ニ至ラシムルヲ得  
 ベシ雖然コノ進取ハ援攀推挽ノ誠意ヲ互ニ上下ノ德義ニ  
 存スルニ非ザレバ乃チ不可ナリ若シ德義ニ欠ク所アレバ  
 誠意ハ忽チ變ジテ猜忌ト成リ三省ノ並行ハ却テ撞著ノ禍

ヲ招キ社會ノ禍趾ヲ保拂スル所以ノ者ヲシテ公衆ノ安寧  
 ヲ擾攪スルノ亂階タルヲ免レザルベシ論者豈ニ深ク慮ラ  
 ザル可ケンヤ  
 編者曰ク吾曹子既ニ明治十年ニ於テ此說アリ今日ニ至  
 リテ所謂ル漸進主義ヲ以テ國憲制定ノ事ヲ云ヘリ此說  
 善ハ善ナルモノ、如シト雖モ只德義ヲノモ特テ成文ナ  
 ケレバ或ハ意外ノ事ナキヲ保フ可カラズ看者深ク察セ  
 ズンハアル可カラズ  
 ○國權ノ論  
 臺 尙 通  
 得、失ニ伴ヒ利害ニ從フハ事物ノ常態ニシテ寔ニ免レ難キ  
 所ナリ夫レ兩間無數ノ事物ニシテ得ノ大ナル者ハ失モ亦  
 大ナリ利ノ小ナル者ハ害モ亦小ナリ故ニ能ク其計ヲ爲ス



モノハ須ク其得失ヲ探究シ克ク其利ヲ採リテ害ヲ避クル  
 ニ在ルノミ蓋シ政府ノ人類社會ニ於ケル働キ爲ス最モ大  
 ニシテ其利モ亦最モ大ニ其害モ亦最モ大ナリ是レ其政府  
 ノ權限確定セザル可カラザルノ根理ノ依リテ起ル所以ナ  
 リ政府ノ權ハ夫レ猶水ノ如キカ水一日モ欠ク可カラザル  
 モノナリト雖モ一旦霖雨霽々地ヲ沒シ陸ヲ流スニ至ツテ  
 ハ寧ロナキニ如カズト思ハシムルヲアリ政府ノ權ハ夫レ  
 猶火ノ如キカ火片時モ無ル可カラザルナリト雖モ猛火炎  
 炎家ヲ燒キ産ヲ無ニスルニ至リテハ寧ロ消盡セシヲ務  
 メシムルナリ水火ノ利ナルモ常チ失シ度ヲ過ルハ豈ニ恐  
 懼セザルヲ得ンヤ  
 抑モ政府ハ自カラ政府ノ職務アリ人民ハ自ラ人民ノ事業

アリ政府モ爲ス可キヲアリ爲ス可カラザルヲアリ人民モ  
 爲ス可キヲアリ爲ス可カラザルヲアリ彌爾氏曰ク政府ハ  
 邊ニ利益多キモノハ政府ニ屬シ人民ノ邊ニ利益多キモノ  
 ハ人民ニ屬ス可シト然リト雖モ國異ナリ時同ジカラザル  
 ハ一規一條ノ理論ヲ以テ容易ニ定ム可キニ非ズ必ズ其  
 國ト其時ニ隨テ官民ノ分界ヲシテ判然明瞭ナラシメ政權  
 ト民權トノ境域ヲシテ確乎分割セシムルノ牆壁ナカル可  
 カラズ若シ此分界ヲ立テズ此牆壁ナケレバ政權ハ民權ノ  
 境域ヲ侵シ民權ハ政權ノ境界ニ入り互ニ相紊亂シ相蹂躪  
 シテ政府人民共ニ其爲ス可カラザルヲ爲シ各々相忍ブ可  
 カラザルノ心ヲ以テ忍フベカラザルノ事ヲ爲スニ至ラン  
 殊ニ政權、民權ノ域内ヲ掠奪シ政府ノ爲ス可カラザルノ事



ヲナシ以テ民權ヲ害シ以テ自由ヲ抑制スルモノ憲ニ天下古今ノ通患ニシテ之レヲ史乘ニ見レバ續々踵ヲ接シテ歴々徴ス可キ也今此患ヲ除キ政權ノ境域ヲ分割シ官民ノ牆壁トナラシムルモノハ獨リ憲法アルノミ抑モ憲法ナルモノハ決シテ獨リ官民ノ牆壁タル而已ニアラザルナリ實ニ一國政治ノ基礎ニシテ夫ノ諸ノ條規百般ノ政令等悉皆此ノ泉源ヨリ流出セザルハナシ是故ニ憲法ナクンバ諸ノ條規百般ノ政令等亦アラザルノ理ナリ假令之レアルモ曾テ一定ノ法ナク猶夫ノ滔々タル洋心ニ於テ船舶ノ磁石ヲ失シタルガ如ク漂々乎トシテ常ニ確實固定ナルヲ望ム可カラズフルンチヨリ氏曰ク國家ハ憲法アリテ始メテ其全体ノ規則定マルヲ得以テ能ク其權理ヲ保存スルヲ得ルナリ故

ニ能ク其權理ヲ確明ニスル者ハ獨リ憲法アルノミト蓋シ人民アリテ政府ヲ設ケ政府アリテ一國社會ノ景狀ヲ爲サバ何レノ邦國ヲ問ハズ此ノ憲法ナカラザル可カラザルナリト雖モ或ハ成文憲法ナキモノアリ或ハ確乎不拔ナル憲法ト稱スベキモノナキアリ憲法ナキノ害ハ獨リ政權民權ノ境域判然タラズ官民相侵奪スルノミニ非ラザルナリ此政府ノ下ニ立ツノ人民ハ貴重無二ナル生命ヲ舉テ之レヲ其時ノ君相ノ良否ニ托セザルヲ得ズ君相良ナラン平他ノ自由財産モ亦安キヲ得ベシ君相良ナラザラン平生命安キヲ得ズ何テ他ノ二君ノ全キヲ望ム可ケンヤ然リ而シテ古今來聖主良相ノ稀ナルハ晨星ノ寥々タルガ如ク暴君汚相ノ多キハ暗夜ノ星ノ如シ此稀有ノ者ヲ以テ彼ノ貴重ナル



生命、自由、財産ノ安全ヲ万一ニ望ムハ猶濁水ノ水キ立テ千  
 仞ノ淵ニ臨ムガ如シ抑モ亦危殆ナル哉憲法ナキノ害ハ豈  
 ニ只之レノミニ止マランヤ夫ノ戰鬪、嫉妬、愛憎、暗殺、暴擧等  
 其他ノ諸惡皆行ハレザルナシ是故ニ憲法ナクンハ社會ノ  
 諸惡悉ク茲ニ輻輳スルノ便ヲ得ン嗚呼憲法ナキハ其害ヤ  
 如斯其弊ヤ如斯豈ニ深ク察セザル可ンヤ  
 今マ夫ノ字内ヲ通觀スルニ英吉利、佛蘭西、日耳曼、比耳時、澳  
 地利、普魯士、荷蘭、西班牙、葡萄牙、米利堅、伊太利、其他瑞典、瑞西、  
 諸威等ノ諸邦ハ共和ナリ立君ナリ其政体ニ異同アリト雖  
 凡俾シク皆國憲ヲ設ケテ真正ノ治安ヲ計圖セザルハナシ  
 試ニ史ヲ緝テ此等諸國ノ未ダ國憲ヲ設ケザルノ時代ト其  
 已ニ設ケタルノ時代トヲ比較シテ先キニ余輩ガ陳セシ弊

害ハ果シテ孰レニ多キ乎人民ノ生命、自由、財産ハ果シテ孰  
 レニ安全ナル乎ヲ察セヨ固ヨリ今日ヲ以テ充分ナリト爲  
 ス可カラザルノミナラズ弊害ノ未ダ社會ニ殘存シ或ハ更  
 ニ増生セシ者アリト雖凡其一般人民ノ幸福、生命、自由、財産  
 ニ於テ先後大ニ差等アルヲ見ルベキ也  
 明治九年 天皇陛下ハ立法ノ源ヲ擴ムル要務ニ當レル元  
 老院議長ニ明詔ヲ下シテ憲法ノ草案ヲ創起ス可キヲ命ゼ  
 リ依テ該院ハ直ニ元老議員數員ヲ詮選シテ其委員ト爲セ  
 リ當時余輩ハ民間ニアリテ側ニ此盛舉ヲ聞キ我政府ノ銳  
 意精ヲ屬マシ汲々治ヲ計ルト世運ノ剌戟輿論ノ鼓動ニ依  
 カテ茲ニ至ルヲ賀シ以テ余輩日本人民ガ熱望セル參政ノ  
 權利ヲ得テ自由ノ海ニ浮泳スルノ遠キニアラザルヲ豫想



シタリキ然ルニ爾來熊本ニ山口ニ鹿兒嶋ニ事アルヲ以テ  
 政府ヲシテ是等ノ一ヲ顧ミルノ暇ナカラシメタリト雖也  
 事已ニ治マリ全ク平時ニ復シタルノ後ハ再ビ茲ニ從事セ  
 ラレタル一ナラシ近日聞ク處ニ依レハ刑法、治罪法、訴訟法  
 等ノ如キハ或ハ已ニ稿ヲ脱セシ者アリト而シテ憲法ニ至  
 リテハ其ノ奈何ヲ聞クナシ是レ余輩ガ本末輕重ノ際ニ於  
 テ怪ムナキヲ得ザル所ナリ斯ク陳ジ來ルヲ見ハ論者アリ  
 テ子ノ憲法ヲ説クハ良シ其憲法ノ創立ヲ我政府ニ望ムニ  
 至リテハ之レヲ歐米諸國ニ徵シテ少シク性質ノ異ナルア  
 ルヲ奈何セント云フモノアラン雖然物ノ完全ナル之ヲ始  
 メニ求ム可カラズ事ノ備具スル之レヲ偶然ニ望ム可カラ  
 ズ只漸ク以テ爲ス可キノミ且ツ我國ノ如キ歐米諸邦ト大

ニ同ジカラザルモノアリテ政府之レガ率先シテ以テ人民  
 ナ誘起シタル者多キニ非ズヤ是レ余輩ガ今日ニ於テ切ニ  
 憲法ノ創立ヲ我政府ニ望ム以テ漸次政府人民ガ銳意シテ  
 遂ニ真正ノ憲法ト爲スニ至ラン一ヲ殊ニ冀望シテ止マザ  
 ル所ナリ書レテ以テ輿論ニ質ス

○憲法論

加藤政之助

憲法トハ何ヤ一國ノ元極即チ一國社會ガ事ヲ處スルノ  
 基礎ナリ歐米中荷モ一國ノ体面ヲ備フルノ國一モ憲法無  
 キ者アルヲ聞カズ國ニシテ憲法無キハ恰モ會社商店ニ定  
 則ナキガ如シ若シ會社商店ニ定則無ク之ガ頭取支配人ノ  
 輩隨意ニ事ヲ處置セバ事物紊亂社中疑惑シ或ハ事ノ專斷  
 ヲ非議シ或ハ事ノ不舉ヲ雜論シ噉々不平ヲ唱フル者陸續



輩出シ社中騷然乖離ノ狀ヲ呈スルモ其ノ權ニ制限無キヲ以テ之ヲ論難非議スル者モ徒ラニ之ヲ論難非議スルニ止リ其ノ定着スル所ヲ知ラズ事ヲ執ル者ハ其ノ勢ニ乗ジテ益ス專横ニ流レ氷炭相容レザルノ勢ヲナシ遂ニ其ノ社ノ潰散ニ至ルヤ必セリ國ニ憲法ナキモ亦然リ何トナレバ一國ニシテ憲法ナケレハ政府人民ヲ處分スルニ道無ク人民之ヲ論ズルニ道無シ且ツ行政立法裁判ノ三權ノ如キモ其ノ區域瞭然相分レザル也縱令其ノ規則法度整然タルモ人間性質ノ不充分ナル常ニ我儘勝手ニ流レ易キニ非ズヤ況ヤ一國ノ基礎タル憲法ナキニ於テ乎焉メ官吏ノ專横ニ出デ君主ノ隨意ニ處スルナキヲ保ス可ケンヤ然リト雖モ一國ノ君主廟堂ノ官吏ヲシテ悉皆完全無缺ノ人々ラシ

メバ殊ニ憲法ヲ編纂シテ權限ヲ制定スルノ勞ヲ取ルヲ要セザレモ君主必ズシモ常ニ聖賢ナラズ官吏必ズシモ常ニ公正ナラザルハ古今ノ史ニ徴シテ昭然タリ歐米人民ノ憲法ヲ尊重スル者蓋シ亦之ニ基スル乎  
 余輩熟ラ我邦ノ現狀ヲ按ズルニ戊辰ノ改革ヲ以テ一時舊慣古例ヲ打破シ大ニ事物ノ變動ヲ生ジ一時混亂錯雜ノ情態有リシモ爾來既ニ十數年ノ星霜ヲ經其ノ舊狀ニ復ス可キハ稍ク舊狀ニ復シ其新様ヲ呈ス可キハ稍ク新様ヲ呈シ萬物將ニ其所ヲ得ントスルノ秋ニ會シ既ニ府縣會ノ制立チ余等人民地方ノ事務ヲ論議スルニ至リタレバ今ヤ我が同胞將ニ一國人民タルニ愧ヂザラントス然リト雖モ一方ヲ願ヒレバ我邦未ダ十全ナル憲法ノ設アラズ政權ニ制限



無ク民權ニ定度無シ元老院アリト雖モ未タ全ク泰西ノ如  
 キ立法ノ權ヲ有スルニ非ズ大審院アリト雖モ未ダ全ク泰  
 西ノ如キ裁判ノ權ヲ有スルニ非ザルガ如シ余輩竊カニ之  
 チ惜マザルヲ得ズ今ヤ我邦ヲ指シテ君主獨裁ト呼ハシ平  
 否ナ先年衆庶ト事ヲ議スル詔アリ之ヲ君民共治ト稱セン  
 乎未タ全ク其制ヲ立テス之ヲ簡單ニ説カバ國體ノ未定ニ  
 係ル者ト謂フモ可ナラン乎國體未ダ定マラズ權限未ダ立  
 タズ人民或ハ安ソセザル有ラン之ヲ安ソスルノ道唯其レ  
 憲法ヲ制スルニ在リ然ラハ則チ憲法ノ制定ハ今日ノ急務  
 ナルニ非ズヤ余輩豈之ヲ默々ニ附スルヲ得ンヤ之ヲ制定  
 スルノ法如何曰ク普シ歐米各國ノ憲法ヲ調査シテ之ガ原  
 案ヲ草シ國會ヲ開キ以テ之ヲ熟議シ明カニ政府ト人民ト

ハ權限ヲ確定シ斷然行政立法裁判ノ三大權ヲ區別シ以テ  
 一國ノ基礎ヲ牢固ナラシムルニ在リ

且ツ夫レ憲法ノ如キハ各國其國體ニ隨テ異ナル者ナレバ  
 君民共治ノ國ニハ君民共治ノ憲法アリ共和政治ノ國ニハ  
 共和政治ノ憲法アリ故ニ我邦ニ憲法ヲ制定セント欲セバ  
 普シ各國ノ憲法ヲ調査スルヲ要セズ直チニ歐洲君民共治  
 國ノ憲法ニ擬シテ可ナリト謂フ者アルモ知ル可カラザレ  
 凡此ノ如キハ亦謬誤ノ甚シキ者ト謂フ可シ何トナレハ共  
 和政治國ノ憲法必ズシモ民ニ利ナラズ君主國ノ憲法必ズ  
 シモ君ニ利ナラズ寛ナル可シト想像スル者却テ酷ニシテ  
 酷ナル可シト豫算スル者却テ寛ナル無キニ非サレバナリ  
 今其一例ヲ舉グレバ佛國ニ於テハ十三ノ上等裁判所アリ



此裁判所有ル各地ハ中央政府ノ課税ヲ不當ト認ムルキハ  
 尙ホ之ヲ拒ムノ權アリ然ルニ米國ニ於テハ法律ヲ制スル  
 モ一ノ法官ニ出デ、之ヲ説明スルモ亦一ノ裁判所ニ出ツ  
 レバ下院ノ發言ニ據テ賦課セシ税金ハ人民之ヲ拒ムヲ得  
 ズ又西班牙ニ於テハ課税ノ事其ノ性質ヲ論ズレバ則チ國  
 民ノ主權ニ屬スト雖モ諸州各々特別ノ關稅ヲ課スルノ權  
 アリ然ルニ米國ニ於テハ該國商業ノ事務ヲ執ルハ獨リ國  
 會ノ權内ニ在リ是等ノ點ニ就キテ論スレバ西佛二國ハ却  
 テ地方ヲ處ルニ米國ヨリ寛ナル所アリ故ニ國憲ノ事ハ頗  
 ル重大ニシテ國家ヲ維持スルノ根據ナレバ苟モ之ヲ編纂  
 セント欲セバ宜ク之レカ委員ヲ定メ普ク各國ノ憲法ヲ調  
 査シ各種折衷シ以テ我邦適當ノ憲法案ヲ起草シ之ヲ國會

ニ附シ商疊熟議シ而後之ヲ制定セザル可ラズ蓋シ此ノ論  
 題ハ其事タル重要一篇ノ文章能ク盡ス可キニ非ザレバ猶  
 詳細ニ論究スル所アラントス諸彦其レ之ヲ諒セヨ  
 編者曰ク國憲ヲ論ズル者ハ皆種々ノ說ヲナスアリト雖  
 モ今此說ノ如キハ眞誠ニ能ク當ヲ得タリト云フベシ蓋  
 シ此說タル氏慶應義塾ニ在リシ時即明治十二年ノ稿ニ  
 係ル而シテ今日氏ハ大坂新報社ノ主幹タリ其ノ卓見明  
 說見ルベキモノナリ看者幸ニ擇フ所アレヨ



明治十三年六月八日御届  
同年六月廿日出版

定價金七十五錢

編輯兼  
出版人

長野縣平民

山岸文藏

東京神田區神田  
龍閑町十番地

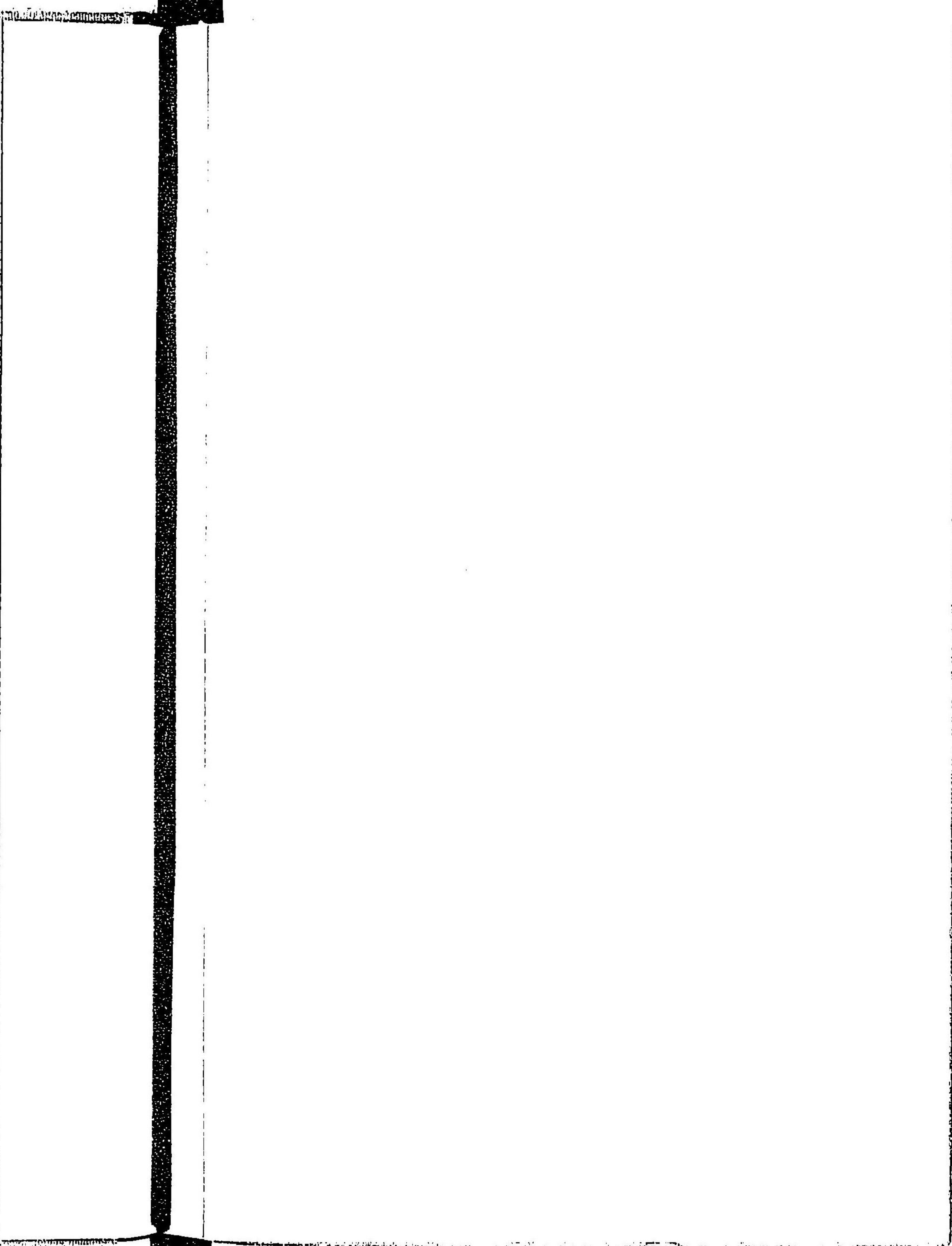
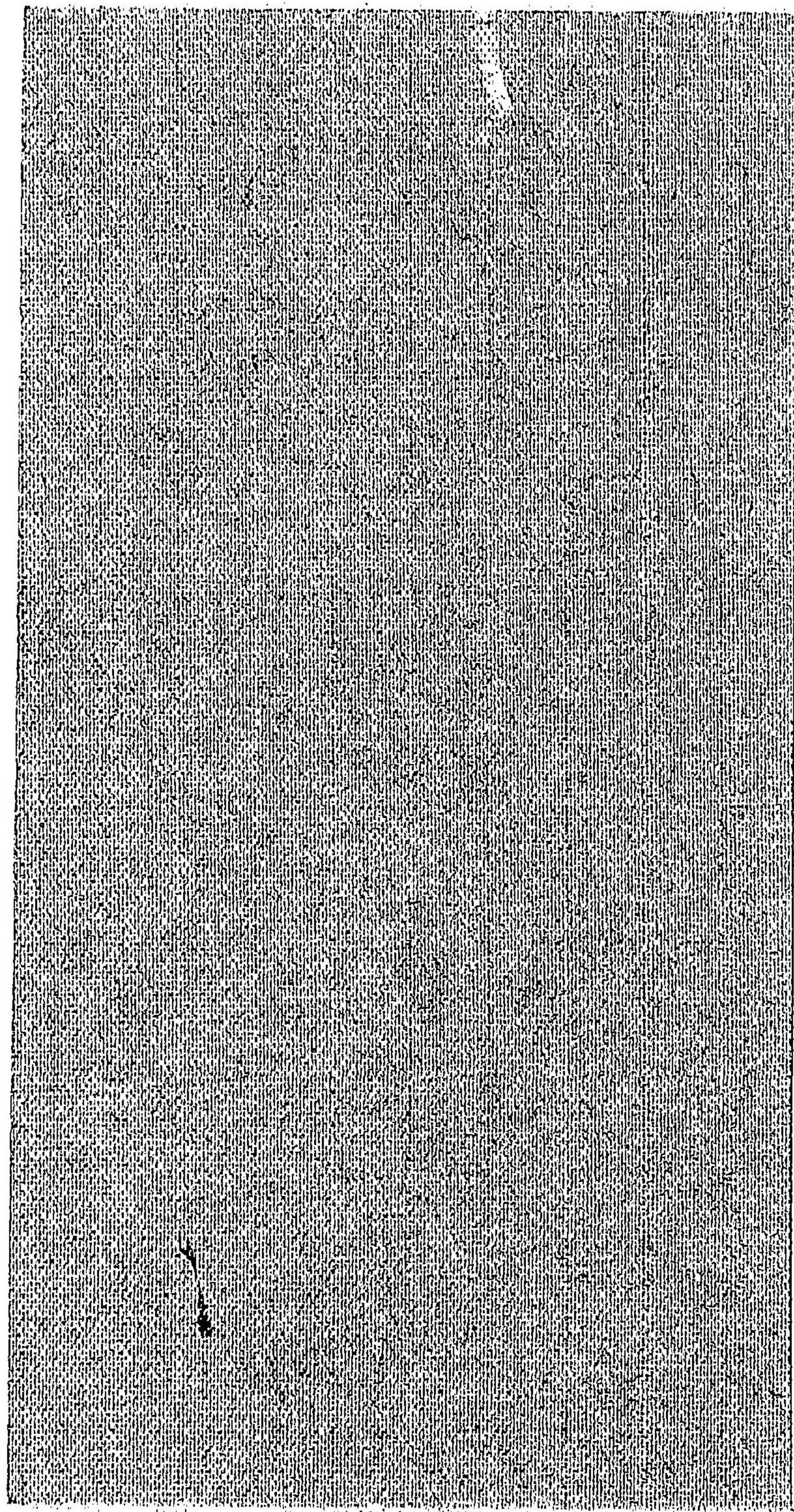
賣弘所

|        |   |       |   |      |
|--------|---|-------|---|------|
| 東京芝三島町 | 全 | 銀座二丁目 | 全 | 新和泉町 |
| 山中市兵衛  | 全 | 銀座四丁目 | 全 | 文園堂  |
| 山中孝之助  | 全 | 山中喜太郎 | 全 |      |

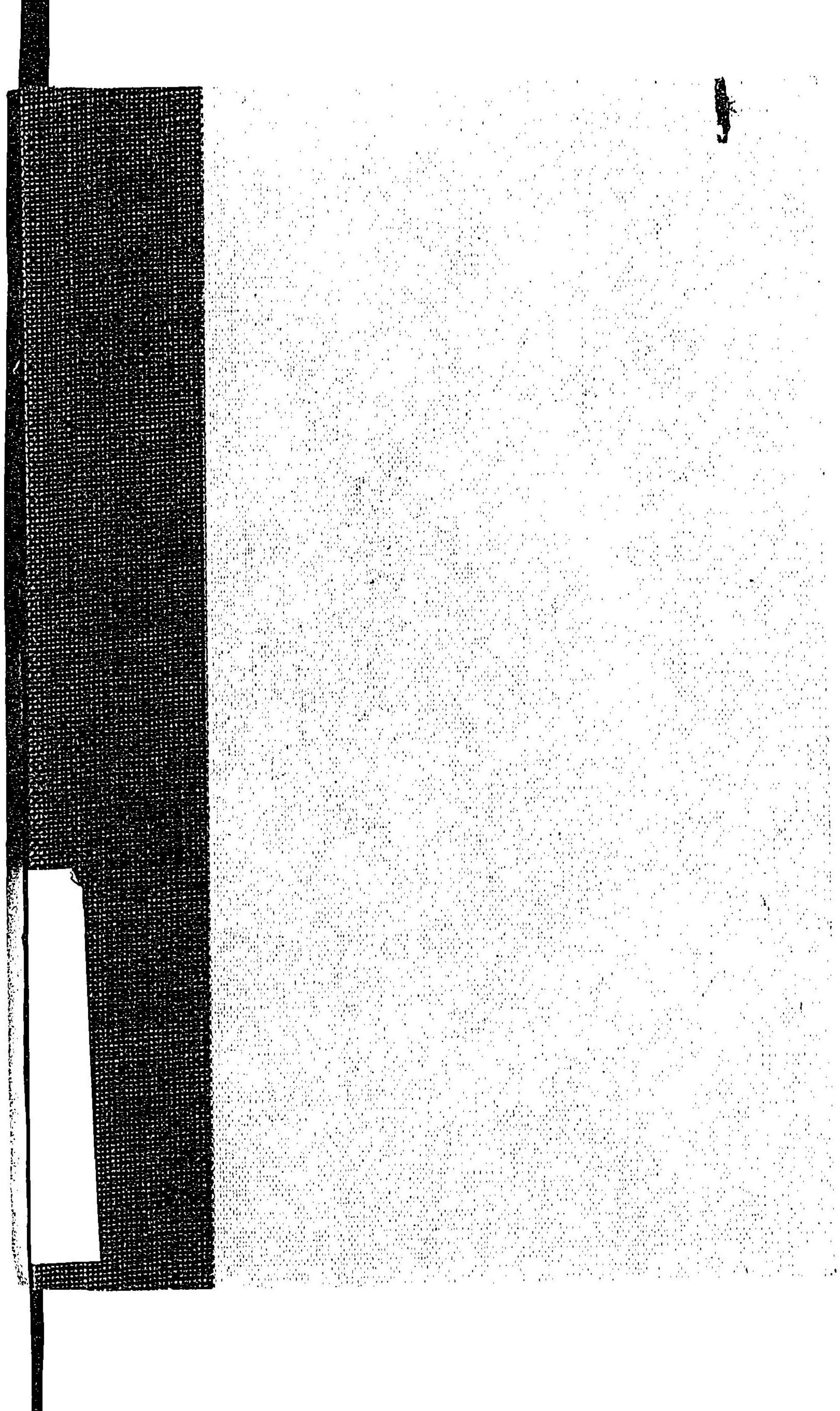


13











特14

92

国憲論編

国立国会図書館

禁複製

031578-000-7

特14-92

国憲論編

山岸 文蔵/編

M13

BBE-0199





